

文部科学省委託事業  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
「先端IT人材育成学科新設プログラム開発事業」

# IT 系学科導入アンケート調査報告書

## 【専門学校編】

学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校

本アンケートは、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校が実施した令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」の成果物です。



# 目次

<b>1. 概要</b> .....	<b>1</b>
<b>2. 趣旨・目的</b> .....	<b>1</b>
<b>3. 「IT 系学科導入アンケート調査」</b> .....	<b>2</b>
3-1. 調査方法 .....	2
3-2. 調査項目 .....	3
3-3. 調査結果 .....	4
<b>4. 講評</b> .....	<b>48</b>
<b>5. アンケート調査票</b> .....	<b>50</b>

# 1. 概要

---

本事業は、VUCA時代、社会環境が複雑性を増し将来の予測が困難な状況になってきている。IT技術の進展により産業構造や競争原理が変化しており、これに適応しIT活用による企業競争力強化や付加価値を高めることは、産業界において不可欠である。とりわけ先端IT人材は、2030年に約45万人が不足、需要が伸びなかった場合でも約16万人が不足すると試算されており(2019年経済産業省)その人材育成は急務である。

また、地方におけるIT人材不足は顕著であり、需要ギャップを補うためにも専門学校におけるIT人材育成の役割は非常に重要となっている。そこで、本事業では、本校近隣地域に多い製造業を主として企業・団体と連携し、先端IT技術適用を思考し活用できる人材育成プログラムを開発する。IT人材育成にはまず間口を広げ、苦手意識を持たないよう学びやすさへの対応も必要であると考え。IT技術やそれを応用した便利なサービスを体験することで、先端IT技術を学ぶ必要性、動機付けを喚起する。検証を重ねた開発プログラムは、今後専門学校において、例えば商業分野からIT分野への学科の転換・新設を図る際のモデルカリキュラムとして活用され、将来の先端IT人材育成に繋げるべく学科の理系転換等の再編を推進・支援することを目的とする。本調査はIT系学科導入アンケート調査を実施し、カリキュラムのニーズを把握する。

## 2. 趣旨・目的

---

この調査は、専門学校の理系学科や成長分野技術の導入状況、転換・新設の意向等を調査することで課題を抽出し、今後理系学科への新設等を支援する取組、モデルカリキュラムの開発へ活かすことを目的とする。

本調査を通して、専門学校での理系分野学科状況把握、理系学科新設等への課題抽出、実証・導入科目の適切性、成長分野の活用事例について構築するモデルに参考となるものとする。

## 3. 「IT 系学科導入アンケート調査」

---

### 3-1. 調査方法

(1) 調査手法

郵送及び Web(Google フォーム)による配布及び回収を実施した。

(2) 調査対象

全国の専門学校名簿より、以下の対象専門学校を無作為に 100 校抽出し、返信用封筒を同封した郵送法でアンケート調査を実施した。

(3) アンケート送付先

対象……… 情報処理、デザイン、ビジネス、医療事務、美容、ファッション系等  
いずれかの学科を設置する専門学校について下記地域から無作為に抽出  
(中四国 46 校、京阪神 40 校、中部東海 14 校)

合計……… 100校が母数

回答数 …… 21件

(4) 調査日程

令和 6 年 11 月 1 日～11 月 25 日

(5) 回収結果

有効回答数は21件(有効回収率21.0%)だった。

※有効回答とした学校は調査側で判断した、調査結果の学校名公表は匿名としている。

※未記入や無回答の設問もあるため、実際の回答は有効回答と異なっている箇所がある。

## 3-2. 調査項目

1. 基本情報
1 所在地 2 設置学科の分野 3 回答者の所属
2. 調査項目
2. 設置学科の状況及び今後の貴校の予定 問2-1 貴校の学科状況
3. ITやAI関連の学科を想定した教育内容、カリキュラムの意向 問3-1 IT、AI、ビッグデータ、IoTを学ぶ上での関連カリキュラムについて <u>優先度の高いもの</u> 問3-2 既存学科をAI関連の学科を新設又は既存学科を転換すると仮定した場合について優先度の高いもの 問3-3 理系の学科新設または転換をすると仮定した場合、AIやビッグデータ、IoTといった先端技術分野を教えるためのカリキュラムを作成する際に、課題と思うこと 問3-4 ChatGPTなどの生成AIの活用について、授業カリキュラムなどの取り扱い
4. ITやAI関連の学科を想定した教育支援の状況と必要な対応 問4-1 AIやビッグデータ、IoTのカリキュラムにおいて、学生が理解度を高めるために教育的な支援が必要な項目 問4-2 企業連携の実習やインターンシップの実施における障壁や課題
5. 学生募集活動の状況 問5-1 先端IT分野に特化した学科を新設・転換した場合の募集方法 問5-2 学生や保護者がAIやビッグデータ、IoTといった先端IT分野学科に持つ不安
6. 就職活動の状況 問6-1. 先端IT分野における就職受け入れ先企業等の確保に必要なこと
7. 自由記述 問7-1. 専門学校で理系学科設置及び理系学科への転換等についての意見

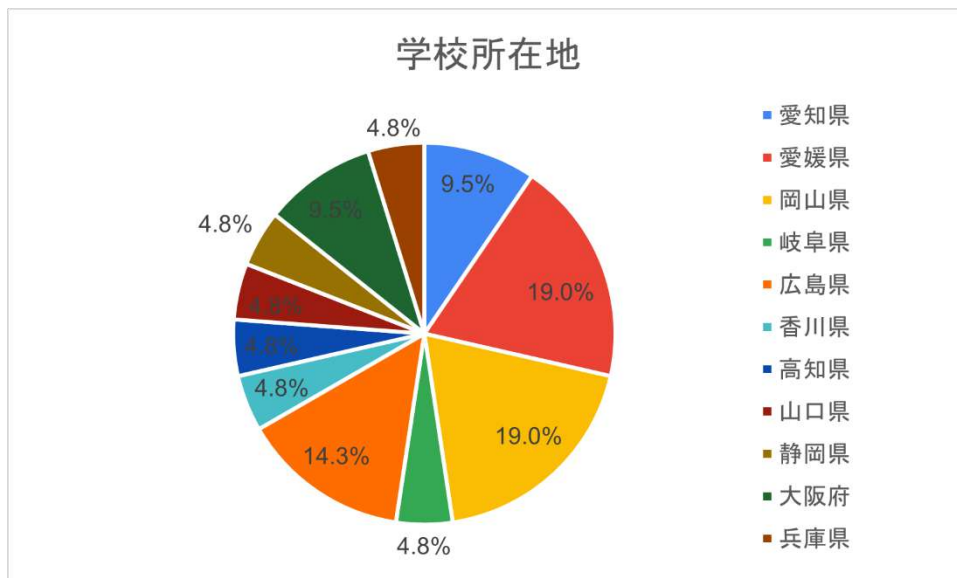
### 3-3. 調査結果

今回の調査票は、情報処理、デザイン、ビジネス、医療事務、美容、ファッション系等いずれかの学科を設置する全国の専門学校 100 校へ送付され、回答期限までに21校より回答を得た。回答方法は、郵送または Web(Google フォームを活用)で実施した。回収率について21.0%であった。

郵送回答は14件、Web 回答は17件であった。

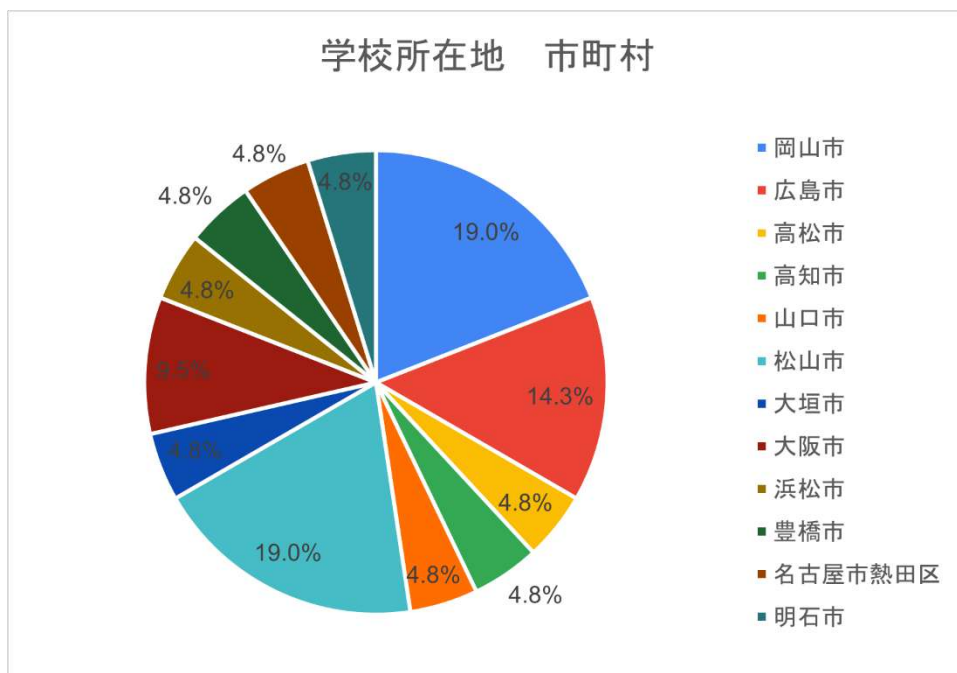
#### 【問1-1-1】 学校所在地

愛知県	2
愛媛県	4
岡山県	4
岐阜県	1
広島県	3
香川県	1
高知県	1
山口県	1
静岡県	1
大阪府	2
兵庫県	1



本調査の回答で多いものから順に、愛媛県・岡山県 4 件(19.0%)、広島県 3 件(14.3%)であった。11 の府県から回答を得ることができた。

岡山市	4
広島市	3
高松市	1
高知市	1
山口市	1
松山市	4
大垣市	1
大阪市	2
浜松市	1
豊橋市	1
名古屋市熱田区	1
明石市	1

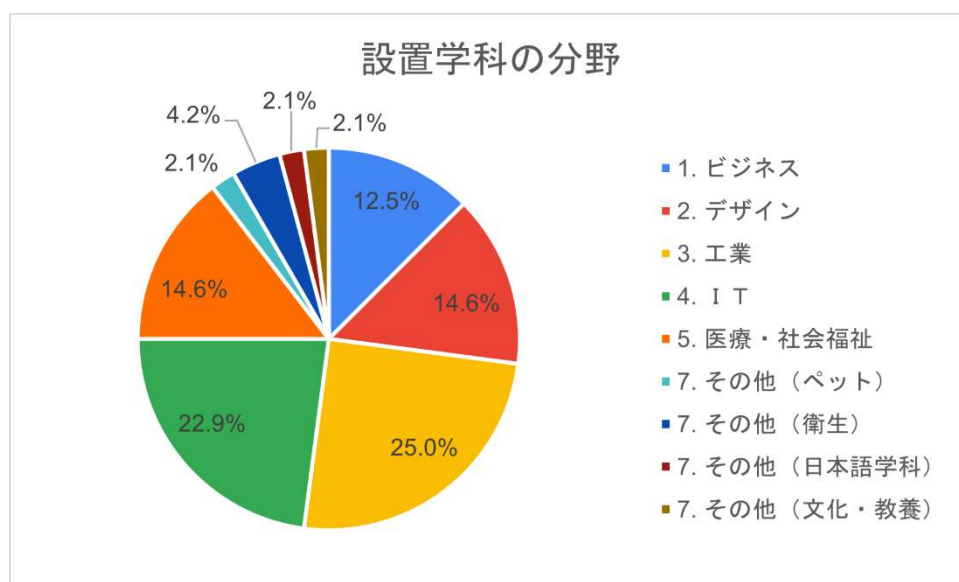


本調査の回答で多いものから順に、岡山市・松山市 4 件(19.0%)、広島市 3 件(14.3%)であった。前設問と同様に幅広く回答が得られている。



【問 1-1-2】 設置学科の分野

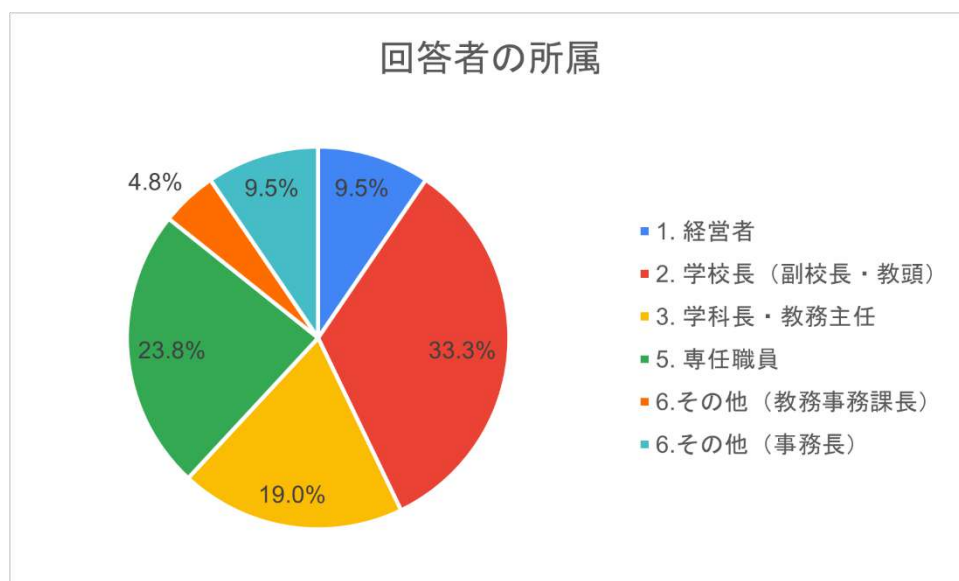
1. ビジネス	6
2. デザイン	7
3. 工業	12
4. IT	11
5. 医療・社会福祉	7
7. その他(ペット)	1
7. その他(衛生)	2
7. その他(日本語学科)	1
7. その他(文化・教養)	1



本調査の回答で多いものから順に、工業 12 件(25.0%)、IT11 件(22.9%)、デザイン・医療・社会福祉 7 件(14.6%)であった。専門学校分野として工業・IT 関連に需要が高まっている様子が分かる。

【問1-1-3】 回答者の所属

1. 経営者	2
2. 学校長(副校長・教頭)	7
3. 学科長・教務主任	4
5. 専任職員	5
6.その他(教務事務課長)	1
6.その他(事務長)	2

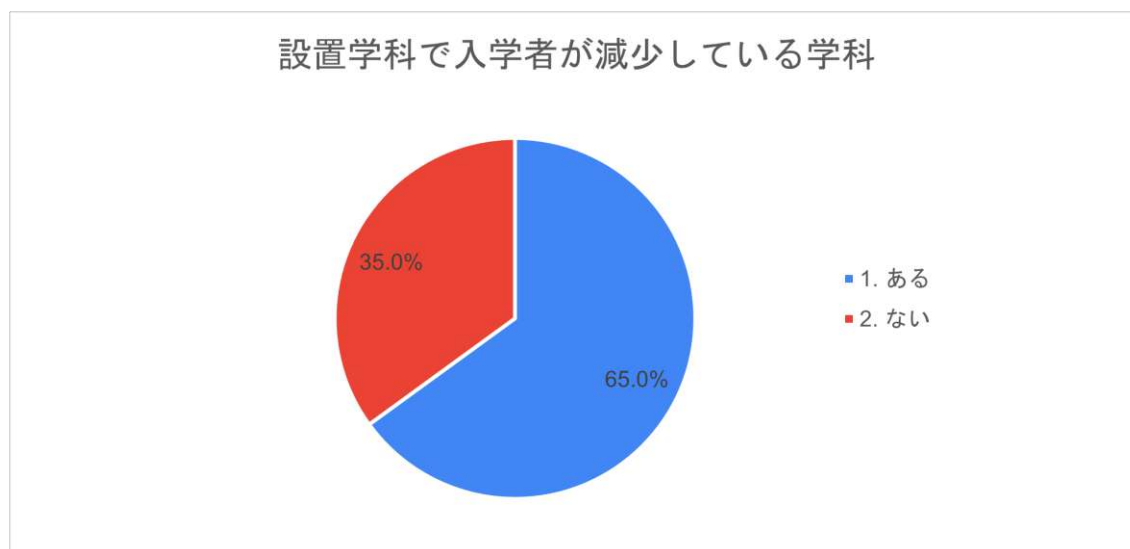


本調査の回答で多いものから順に、学校長(副校長・教頭)7件(33.3%)、専任職員5件(23.8%)、学科長・教務主任4件(19.0%)であった。全体の約半数は学校長や学科長から回答を得られていることから、学校の今後の方針について特に中心に関わる立場からの意見を得られている。

## 2. 設置学科の状況及び今後の貴校の予定

【問2-1-1】 設置学科で入学者が減少している学科は何ですか。

1. ある	13
2. ない	7
総計	20



本調査の回答では、ある 13 件(65.0%)、ない 7 件(35.0%)となった。6 割以上の学校で減少している学科がみられている。

### ●具体的学科名での前年度比の減少率

学科名 1.	前年度比(%)
情報システム学科	20%
食品生命科学科	70%
情報ビジネス科	10%
インテリア・プロダクト科	15%
情報処理科	10%
公務員学科	68%
デジタルデザイン	20%
デザインコンピューター学科	20%
理学療法学科	10%
理容	58%
IT スペシャリスト	18%
コンピュータ	10%
介護福祉科	30%

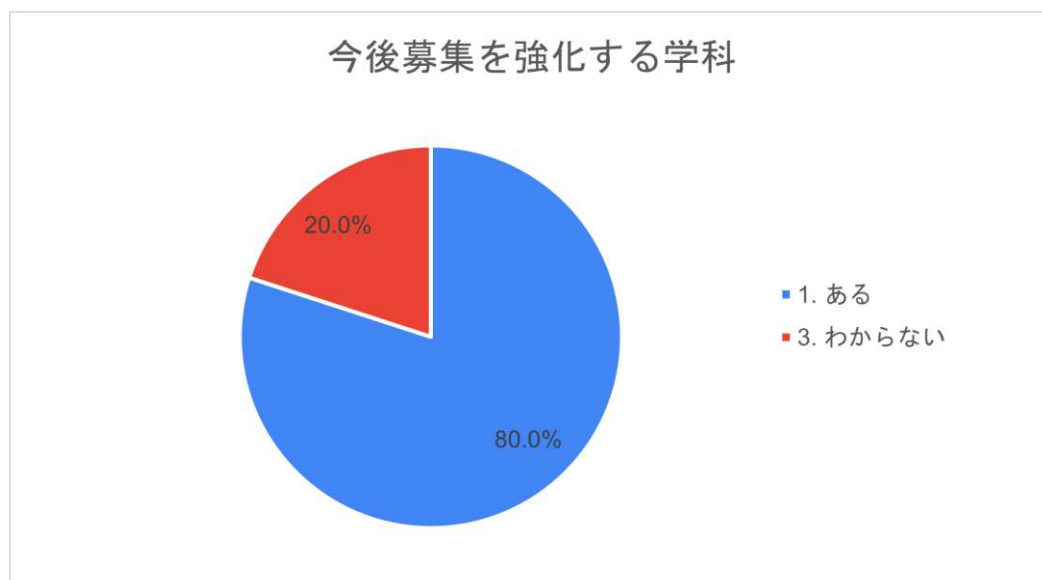
学科名 2.	前年度比(%)
測量環境工学科	25%
ホテルブライダル科	10%
IT デジタルクリエイター科	30%
診療情報管理士学科	67%
漫画クリエイター	15%
トータルビューティ	53%
ビジネス実務	47%
医療事務	10%

学科名 3.	前年度比(%)
建築工学科	24%
医療事務学科	20%
ネットワーク・動画・クリエイター学科	80%
インテリア・製菓デザイン	8%
医療秘書	100%
パティシエ	10%

【問 2-1-2】 今後募集を強化する学科は何ですか。

1. ある	16
3. わからない	4

※「2. ない」は0であったため入れていない。



本調査の回答では、ある 16 件(80.0%)、わからない 4 件(20.0%)となった。入学者の減少に伴い募集の強化を検討する学校が多いことが分かる。

●具体的学科名での 1 学年定員予定

学科名 1.	1 学年定員予定
スーパーゲームIT科	120 名
国際情報学科	20 名
情報工学科	30 名
IT デジタルクリエイター科	10 名
ウェルネス IT 学科	40 名
公務員学科	20 名
WEB システム科	20 名
ネット動画クリエイター	20 名
理学療法学科	40 名
理容	30 名
建築学科	1 名
自働車整備学科	70 名
IT スペシャリスト	20 名

コンピュータ	30名
トラベル観光学科	20名
介護福祉科	40名

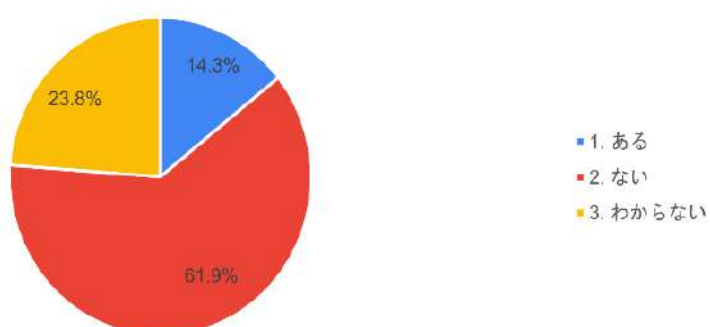
学科名 2.	1 学年定員予定
食品生命科学科	20名
情報ビジネス科	30名
ショッププロデュース科	10名
日本語科	60名
診療情報管理士学科	20名
3CDG(アニメーション)、ゲームクリエイター	30名
作業療法学科	40名
トータルビューティ	80名
電気通信施工学科	40名
ビジネス実務	20名
動画デザインビジネス学科	20名

学科名 3.	1 学年定員予定
メディアデザイン科	30名
インテリア・プロダクト科	15名
ネット・動画・クリエイター学科	30名
e スポーツ	30名
診療情報管理学科	30名
医療秘書	20名
事務職養成学科	20名

【問 2-1-3】 IT 化が進む分野または応募の減少する学科での IT を活用しての理系学科転換を行う予定はありますか。

1. ある	3
2. ない	13
3. わからない	5

IT化が進む分野または応募の減少する学科でのITを活用しての理系学科転換を行う予定



本調査の回答で多いものから順に、ない 13 件(61.9%)、わからない 5 件(23.8%)、ある 3 件(14.3%)であった。理系学科への転換がまた浸透していない様子が見えてくる。

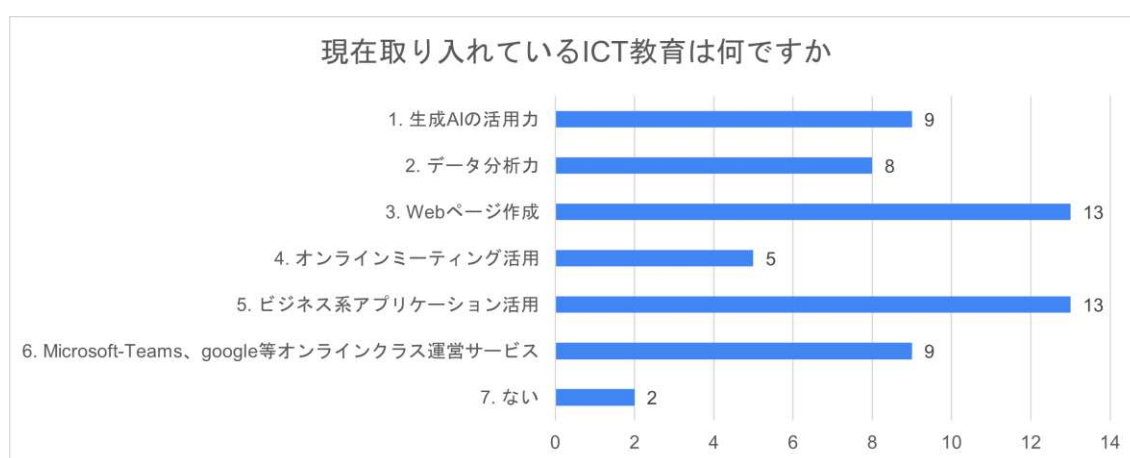
学科名 1.	1 学年定員予定数
情報ビジネス科	30 名
IT デジタルクリエイター科	10 名
3DCG(アニメーション)	30 名

学科名 2.	1 学年定員予定数
ネット動画クリエイター	30 名

学科名 3.	1 学年定員予定数
グラフィックデザイン	30 名

【問 2-1-4】 現在取り入れている ICT 教育は何ですか(複数回答可)。

1. 生成 AI の活用力	9
2. データ分析力	8
3. Web ページ作成	13
4. オンラインミーティング活用	5
5. ビジネス系アプリケーション活用	13
6. Microsoft-Teams、google 等オンラインクラス運営サービス	9
7. ない	2

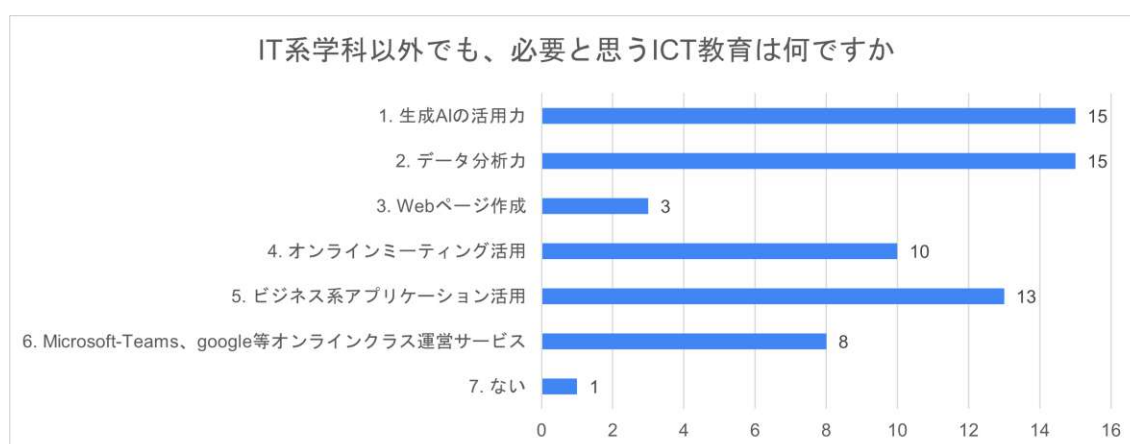


本調査の回答で多いものから順に、Web ページ作成・ビジネス系アプリケーション活用 13 件、生成 AI の活用力・Microsoft-Teams、google 等オンラインクラス運営サービス 9 件であった。リモート文化が発達していることもあり、どの項目も取り組む学校が多くなっている。



【問2-1-5】 IT系学科以外でも、必要と思うICT教育は何ですか(複数回答可)。

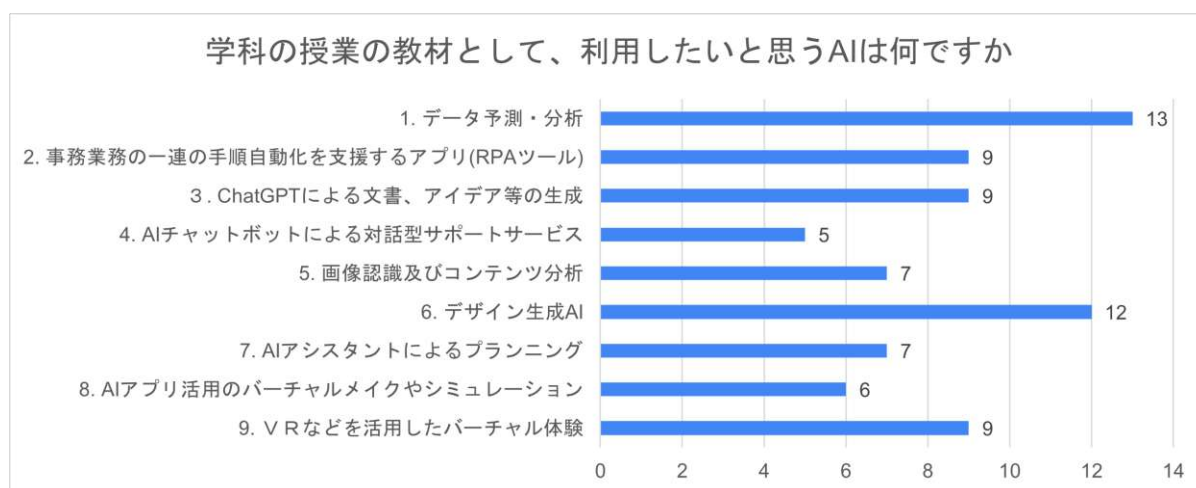
1. 生成 AI の活用力	15
2. データ分析力	15
3. Web ページ作成	3
4. オンラインミーティング活用	10
5. ビジネス系アプリケーション活用	13
6. Microsoft-Teams、google 等オンラインクラス運営サービス	8
7. ない	1



本調査の回答で多いものから順に、生成 AI の活用力・データ分析力 15 件、ビジネス系アプリケーション活用 13 件であった。全体の半数以上が必要と回答する項目が多く見られた。

【問2-1-6】学科の授業の教材として、利用したいと思うAIは何ですか(複数回答可)。

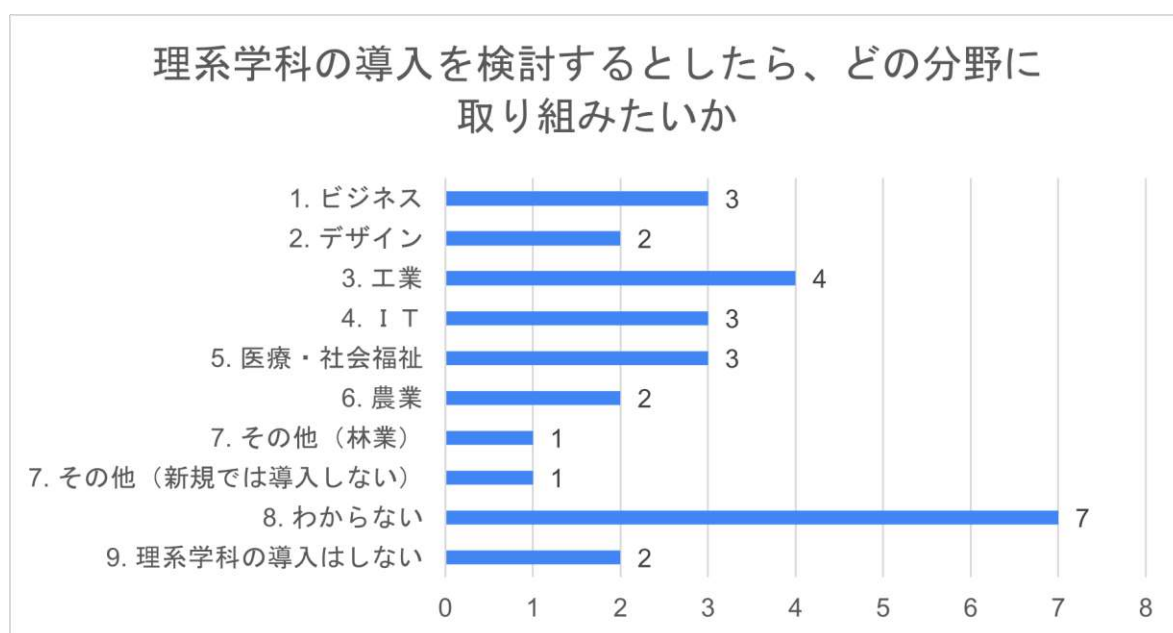
1. データ予測・分析	13
2. 事務業務の一連の手順自動化を支援するアプリ(RPA ツール)	9
3. ChatGPT による文書、アイデア等の生成	9
4. AI チャットボットによる対話型サポートサービス	5
5. 画像認識及びコンテンツ分析	7
6. デザイン生成 AI	12
7. AI アシスタントによるプランニング	7
8. AI アプリ活用のバーチャルメイクやシミュレーション	6
9. VRなどを活用したバーチャル体験	9



本調査の回答で多いものから順に、データ予測・分析 13 件、デザイン生成 AI 12 件、事務業務の一連の手順自動化を支援するアプリ(RPA ツール)・ChatGPT による文書、アイデア等の生成・VRなどを活用したバーチャル体験 9 件であった。前設問同様に多くの項目で半数近くの学校が利用したいと回答している。

【問2-1-7】理系学科の導入を検討するとしたら、どの分野に取り組みたいか(複数回答可)。理系学科への転換または新設の学科を検討するうえで、重要な要素の順位づけをそれぞれの項目ごとに4段階評価を行ってください。

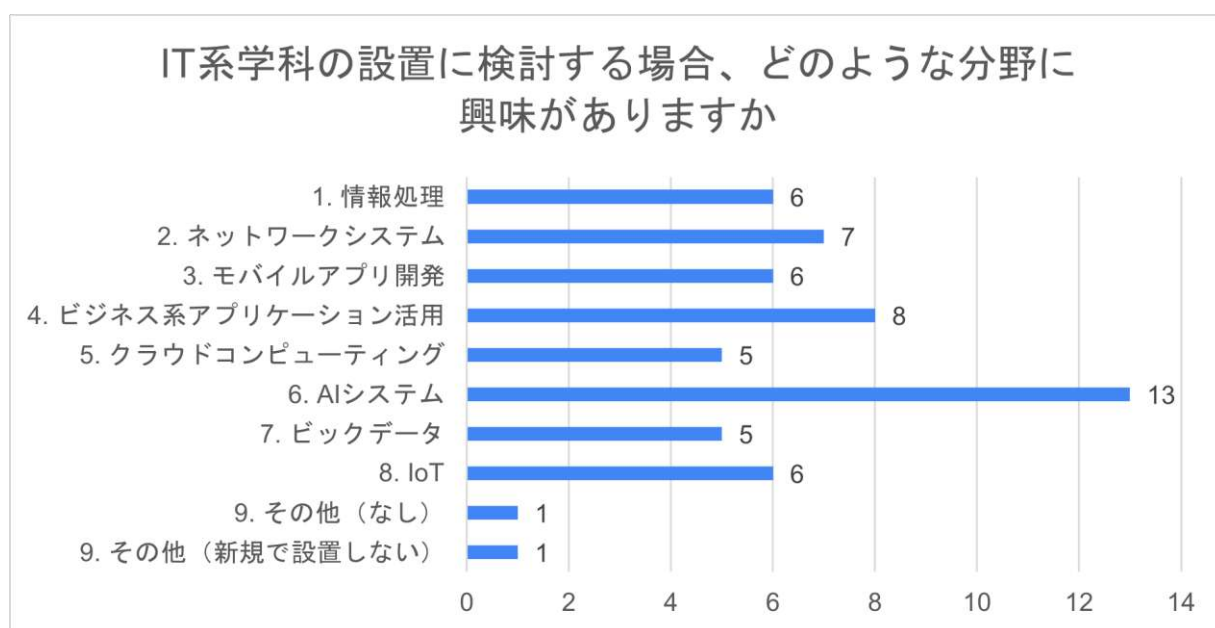
1. ビジネス	3
2. デザイン	2
3. 工業	4
4. IT	3
5. 医療・社会福祉	3
6. 農業	2
7. その他(林業)	1
7. その他(新規では導入しない)	1
8. わからない	7
9. 理系学科の導入はしない	2



本調査の回答で多いものから順に、わからない7件、工業4件、ビジネス・IT・医療・社会福祉3件であった。回答数は設置している学科数に比例しているが、それ以上に導入が分からないと答えた学校が多い。

【問2-1-8】 IT系学科の設置を検討する場合、どのような分野に興味がありますか(3つ選択してください)。

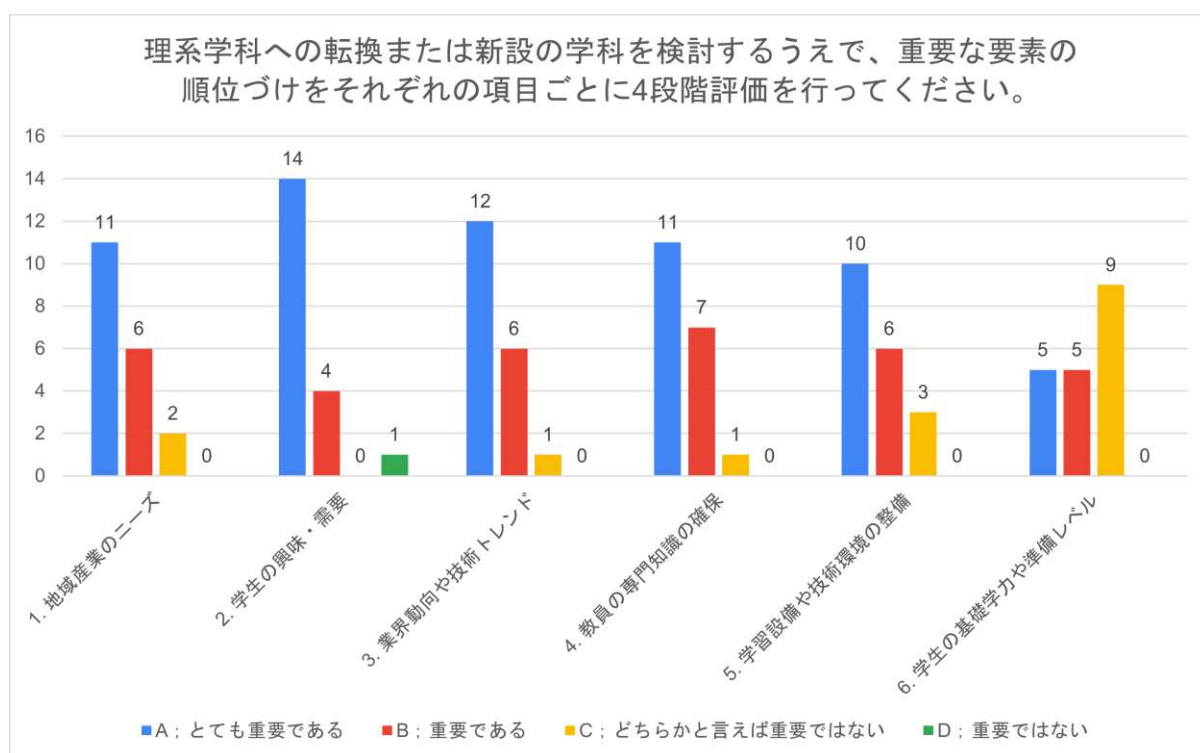
1. 情報処理	6
2. ネットワークシステム	7
3. モバイルアプリ開発	6
4. ビジネス系アプリケーション活用	8
5. クラウドコンピューティング	5
6. AIシステム	13
7. ビックデータ	5
8. IoT	6
9. その他(なし)	1
9. その他(新規で設置しない)	1



本調査の回答で多いものから順に、AIシステム13件、ビジネス系アプリケーション活用8件、ネットワークシステム7件であった。AIシステムへの興味は突出しているが、その他項目への興味もほぼ同数の回答が得られている。

【問2-1-9】理系学科への転換または新設の学科を検討するうえで、重要な要素の順位づけをそれぞれの項目ごとに4段階評価を行ってください。

	1. 地域産業のニーズ	2. 学生の興味・需要	3. 業界動向や技術トレンド	4. 教員の専門知識の確保	5. 学習設備や技術環境の整備	6. 学生の基礎学力や準備レベル
A	11	14	12	11	10	5
B	6	4	6	7	6	5
C	2	0	1	1	3	9
D	0	1	0	0	0	0



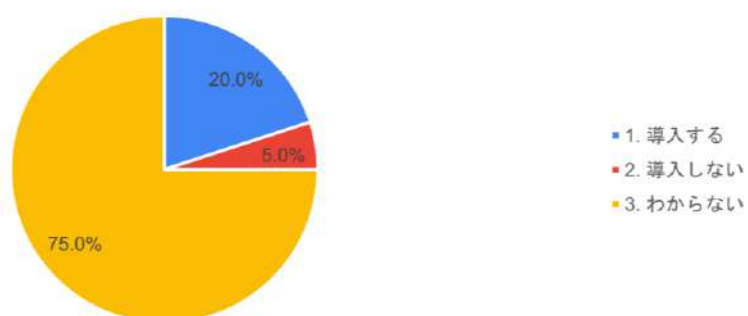
本調査で「A;とても重要である」と回答した項目で一番多いのが学生の興味・需要 14 件で、二番目に多いのが業界動向や技術トレンド 12 件、三番目に多いのが地域産業のニーズ・教員の専門知識の確保 11 件であった。学習設備や技術環境の整備も含め、いずれの項目も多くの学校は重要性を高く見ている。一方で学生の基礎学力や準備レベルについては他項目と比べると重要性が高くない傾向が見られる。

【問2-1-9】 理系学科の転換または新設の学科を検討するうえで、eラーニングの導入を検討しますか。

1. 導入する	4
2. 導入しない	1
3. わからない	15

---

理系学科の転換または新設の学科を検討するうえで、eラーニングの導入を検討しますか？



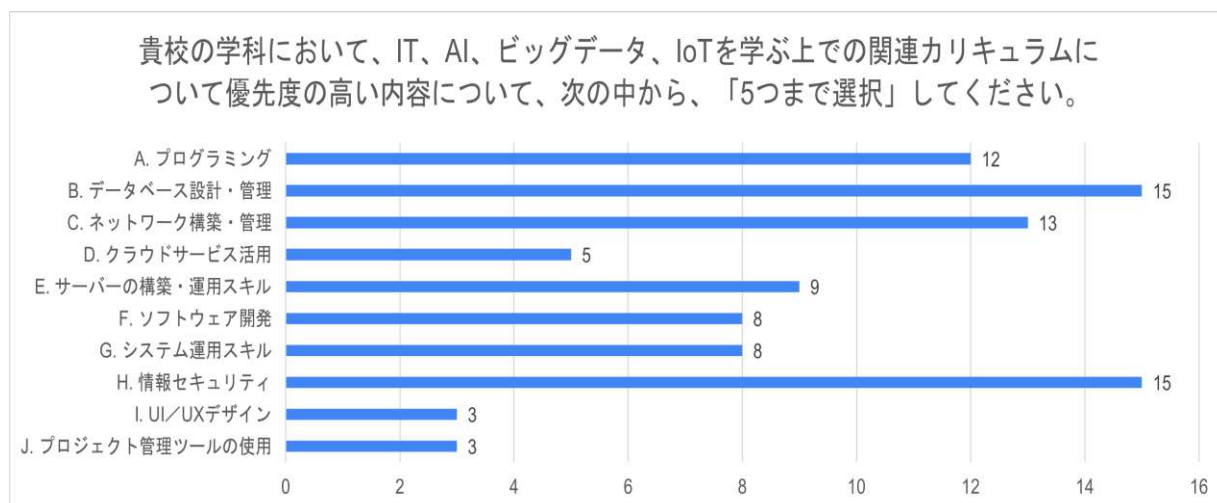
---

本調査の回答で多いものから順に、わからない 15 件(75.0%)、導入する 4 件(20.0%)、導入しない 1 件(5.0%)であった。現段階では導入イメージがついていない学校が多いことが分かる。

### 3. ITやAI関連の学科を想定した教育内容、カリキュラムの意向

【問3-1】 貴校の学科において、IT、AI、ビッグデータ、IoTを学ぶ上での関連カリキュラムについて優先度の高い内容について、次の中から、「5つまで選択」してください。

A. プログラミング	12
B. データベース設計・管理	15
C. ネットワーク構築・管理	13
D. クラウドサービス活用	5
E. サーバーの構築・運用スキル	9
F. ソフトウェア開発	8
G. システム運用スキル	8
H. 情報セキュリティ	15
I. UI/UX デザイン	3
J. プロジェクト管理ツールの使用	3



本調査の回答で多いものから順に、データベース設計・管理・情報セキュリティ 15 件、ネットワーク構築・管理 13 件であった。プログラミングも含め 4 項目で半数以上の学校が優先度が高いと回答した。

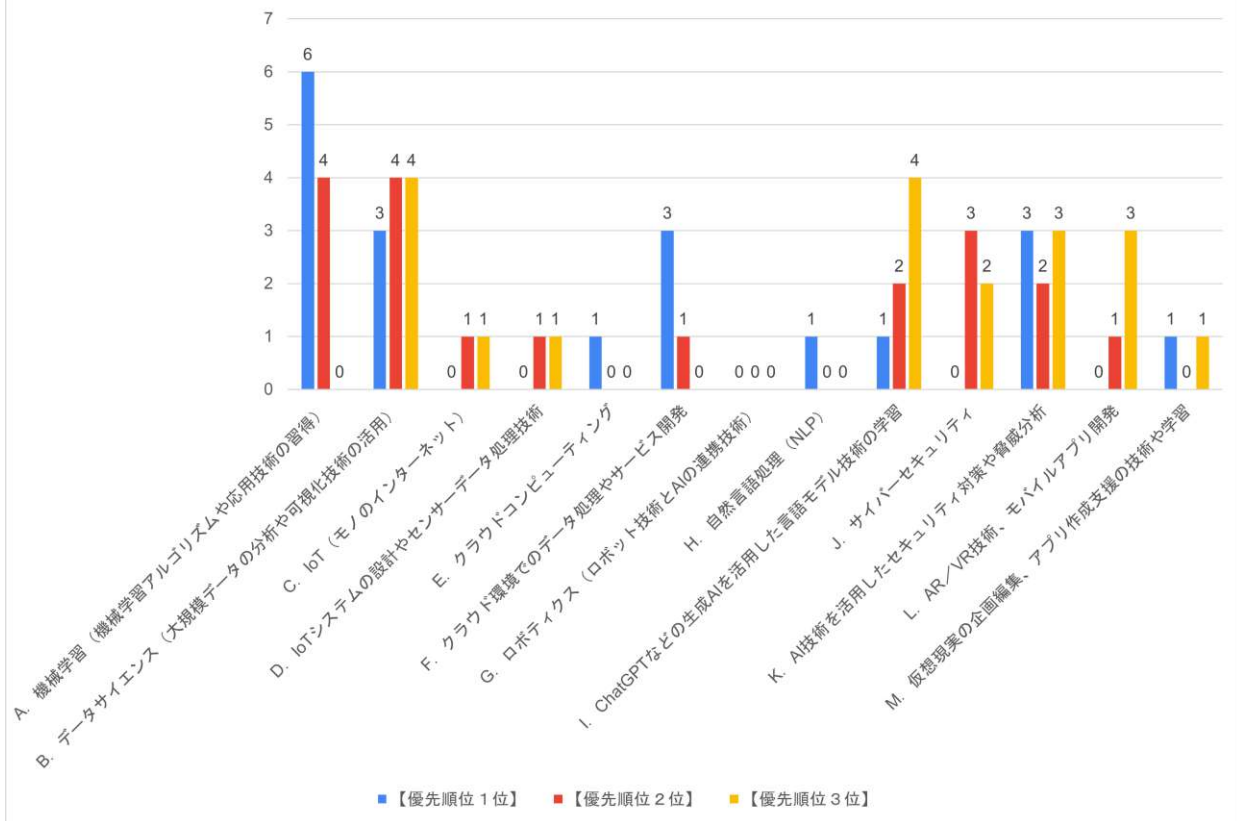
【問3-2】 貴校が既存学科をAI関連の学科を新設又は既存学科を転換すると仮定した場合において、下記の設問に答えてください。

【問 3-2-1】 教育内容やカリキュラムについて、どのような内容に重点を置きますか。

	【優先順位1位】	【優先順位2位】	【優先順位3位】
A. 機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)	6	4	0
B. データサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)	3	4	4
C. IoT(モノのインターネット)	0	1	1
D. IoT システムの設計やセンサーデータ処理技術	0	1	1
E. クラウドコンピューティング	1	0	0
F. クラウド環境でのデータ処理やサービス開発	3	1	0
G. ロボティクス(ロボット技術と AI の連携技術)	0	0	0
H. 自然言語処理(NLP)	1	0	0
I. ChatGPT などの生成 AI を活用した言語モデル技術の学習	1	2	4
J. サイバーセキュリティ	0	3	2
K. AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析	3	2	3
L. AR/VR 技術、モバイルアプリ開発	0	1	3
M. 仮想現実の企画編集、アプリ作成支援の技術や学習	1	0	1



教育内容やカリキュラムについて、どのような内容に重点を置きますか。

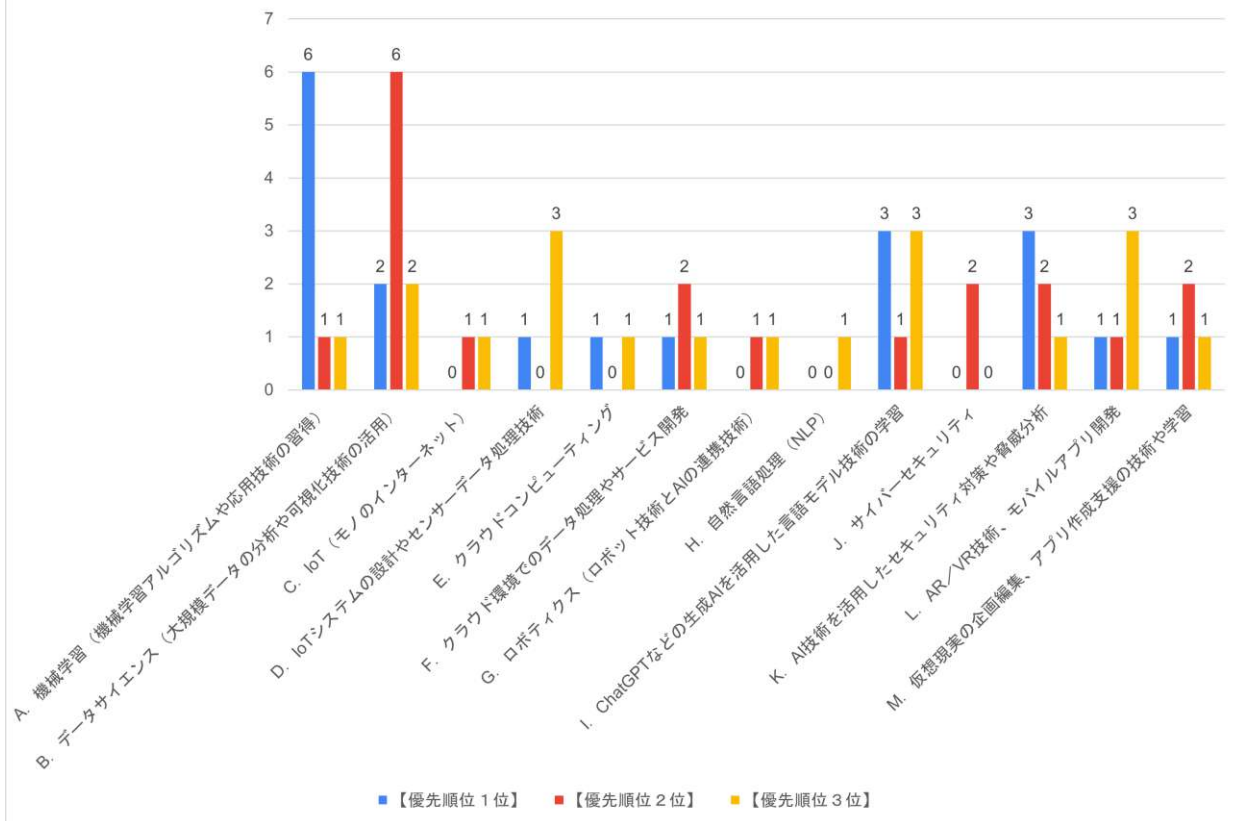


本調査で「優先順位 1 位」と回答した項目で一番多いのが機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)6 件で、二番目に多いのがデータサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)・クラウド環境でのデータ処理やサービス開発・AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析 3 件であった。「優先順位2位」と回答した項目で一番多いのが機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)・データサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)4 件で、二番目に多いのがサイバーセキュリティ 3 件であった。データサイエンスは優先順位 3 位でも多く回答されており、各学校の教育内容の重点は重なる点が多いことが分かる。

【問3-2-2】 AI関連の学科を運営するために、追加で必要な教員のIT専門分野は何ですかAI関連の学科を運営するために、追加で必要な教員のIT専門分野は何ですか。

	【優先順位1位】	【優先順位2位】	【優先順位3位】
A. 機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)	6	1	1
B. データサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)	2	6	2
C. IoT(モノのインターネット)	0	1	1
D. IoT システムの設計やセンサーデータ処理技術	1	0	3
E. クラウドコンピューティング	1	0	1
F. クラウド環境でのデータ処理やサービス開発	1	2	1
G. ロボティクス(ロボット技術と AI の連携技術)	0	1	1
H. 自然言語処理(NLP)	0	0	1
I. ChatGPT などの生成 AI を活用した言語モデル技術の学習	3	1	3
J. サイバーセキュリティ	0	2	0
K. AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析	3	2	1
L. AR/VR 技術、モバイルアプリ開発	1	1	3
M. 仮想現実の企画編集、アプリ作成支援の技術や学習	1	2	1

AI関連の学科を運営するために、追加で必要な教員のIT専門分野は何ですか

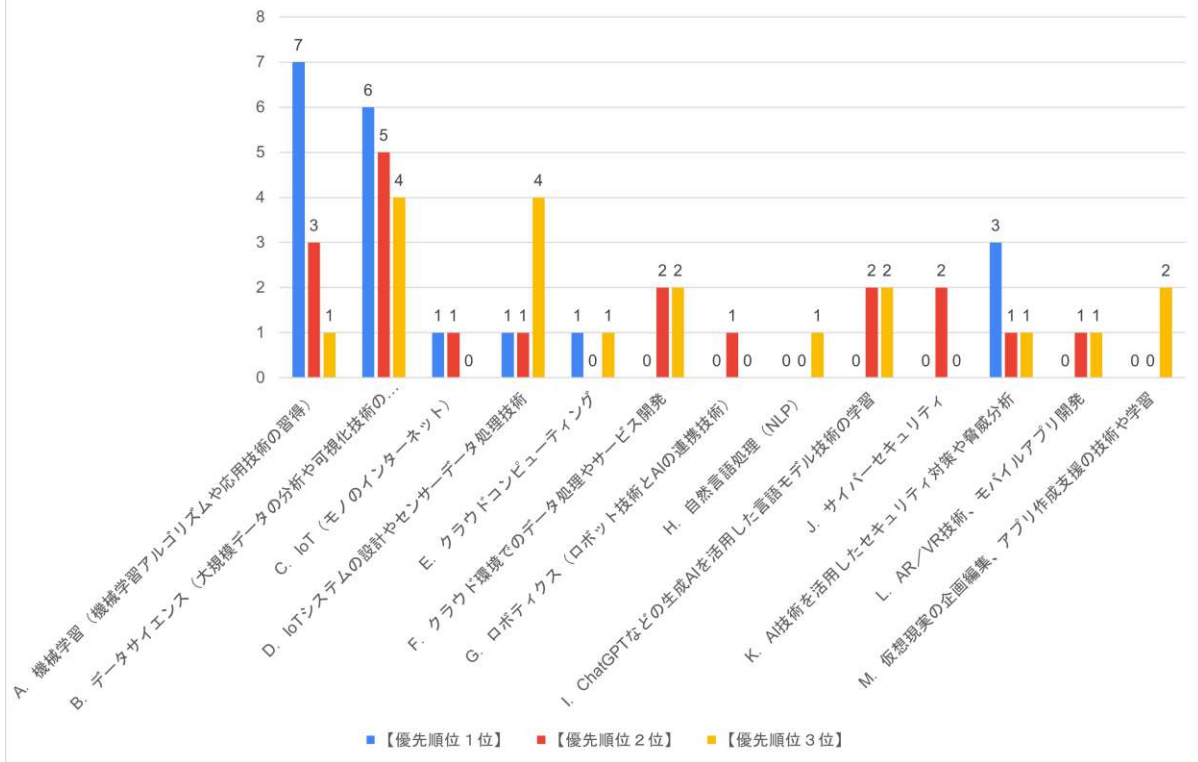


本調査で「優先順位 1 位」と回答した項目で一番多いのが機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)6 件で、二番目に多いのが ChatGPT などの生成 AI を活用した言語モデル技術の学習・AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析 3 件であった。データサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)が優先順位 2 位で一番回答が多かったり、ChatGPT などの生成 AI を活用した言語モデル技術の学習が前設問で優先順位 3 位で一番回答が多いことから、本設問は教育内容の重点と密接に関係している。

【問3-2-3】 AI関連の学科にて、「eラーニング」を活用する場合、AIやビッグデータ、IT、IoT技術についてどのよう分野で利用したいですか。

	【優先順位1位】	【優先順位2位】	【優先順位3位】
A. 機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)	7	3	1
B. データサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)	6	5	4
C. IoT(モノのインターネット)	1	1	0
D. IoT システムの設計やセンサーデータ処理技術	1	1	4
E. クラウドコンピューティング	1	0	1
F. クラウド環境でのデータ処理やサービス開発	0	2	2
G. ロボティクス(ロボット技術と AI の連携技術)	0	1	0
H. 自然言語処理(NLP)	0	0	1
I. ChatGPT などの生成 AI を活用した言語モデル技術の学習	0	2	2
J. サイバーセキュリティ	0	2	0
K. AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析	3	1	1
L. AR/VR 技術、モバイルアプリ開発	0	1	1
M. 仮想現実の企画編集、アプリ作成支援の技術や学習	0	0	2

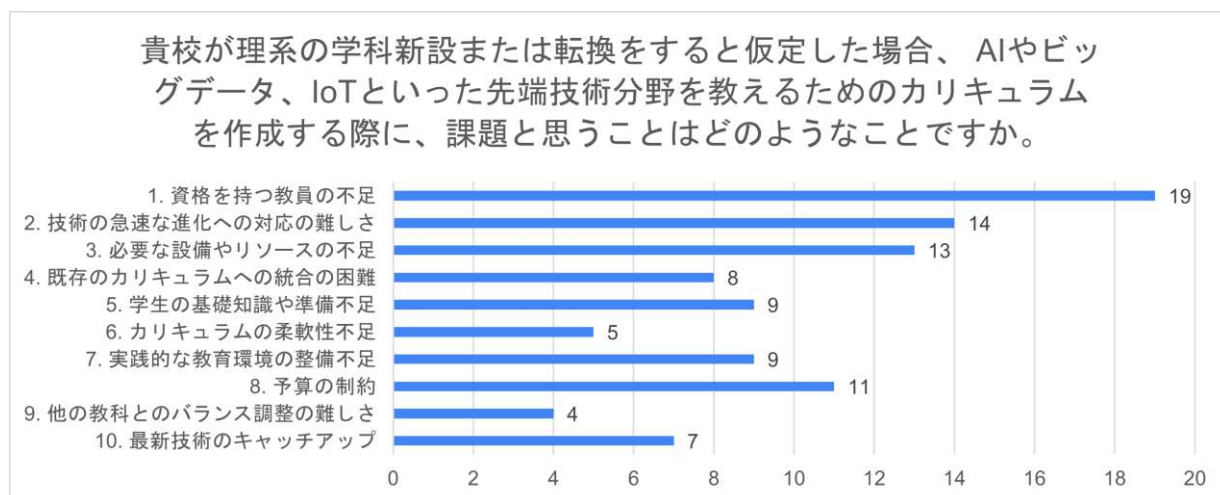
AI関連の学科にて、「eラーニング」を活用する場合、AIやビッグデータ、IT、IoT技術についてどのような分野で利用したいですか



本調査で「優先順位 1 位」と回答した項目で一番多いのが機械学習(機械学習アルゴリズムや応用技術の習得)7件で、二番目に多いのがデータサイエンス(大規模データの分析や可視化技術の活用)6件で、三番目に多いのが AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析 3 件であった。機械学習やデータサイエンスは優先順位 2 位でも多く回答されており、多くの学校で取り組みたい内容になっていることが分かる。

【問3-3】 貴校が理系の学科新設または転換をすると仮定した場合、AIやビッグデータ、IoTといった先端技術分野を教えるためのカリキュラムを作成する際に、課題と思うことはどのようなことですか。当てはまるもの全てを選んでください。

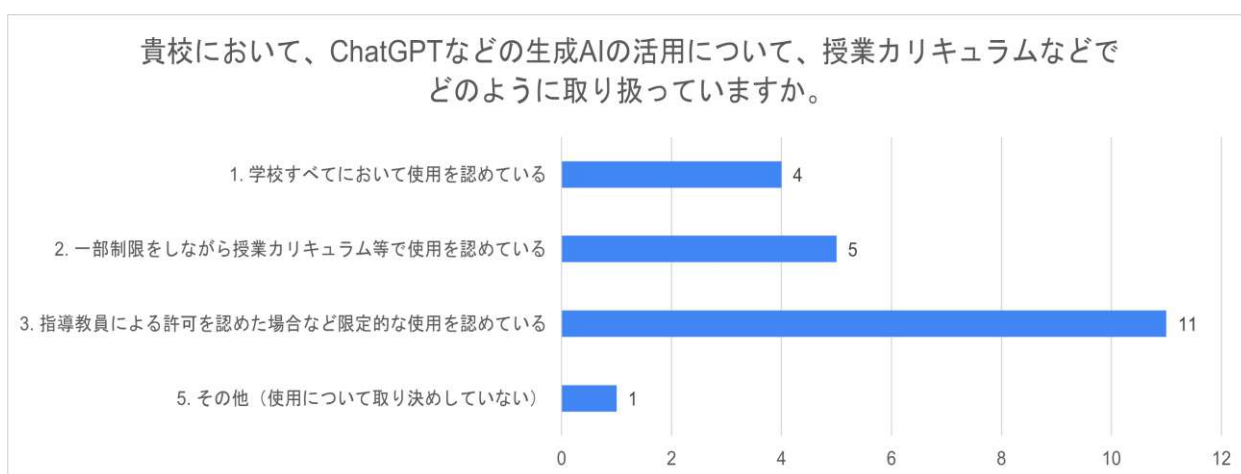
1. 資格を持つ教員の不足	19
2. 技術の急速な進化への対応の難しさ	14
3. 必要な設備やリソースの不足	13
4. 既存のカリキュラムへの統合の困難	8
5. 学生の基礎知識や準備不足	9
6. カリキュラムの柔軟性不足	5
7. 実践的な教育環境の整備不足	9
8. 予算の制約	11
9. 他の教科とのバランス調整の難しさ	4
10. 最新技術のキャッチアップ	7



本調査の回答で多いものから順に、資格を持つ教員の不足 19 件、技術の急速な進化への対応の難しさ 14 件、必要な設備やリソースの不足 13 件であった。ほぼすべての学校で人材の問題について回答している。また全体の約半数の回答が集まった設問も多く見られるため、理系の学科新設・転換には複数の課題解決が必要となる。

【問3-4】 貴校において、ChatGPTなどの生成AIの活用について、授業カリキュラムなどでどのように取り扱っていますか。当てはまるものを全て選んでください。

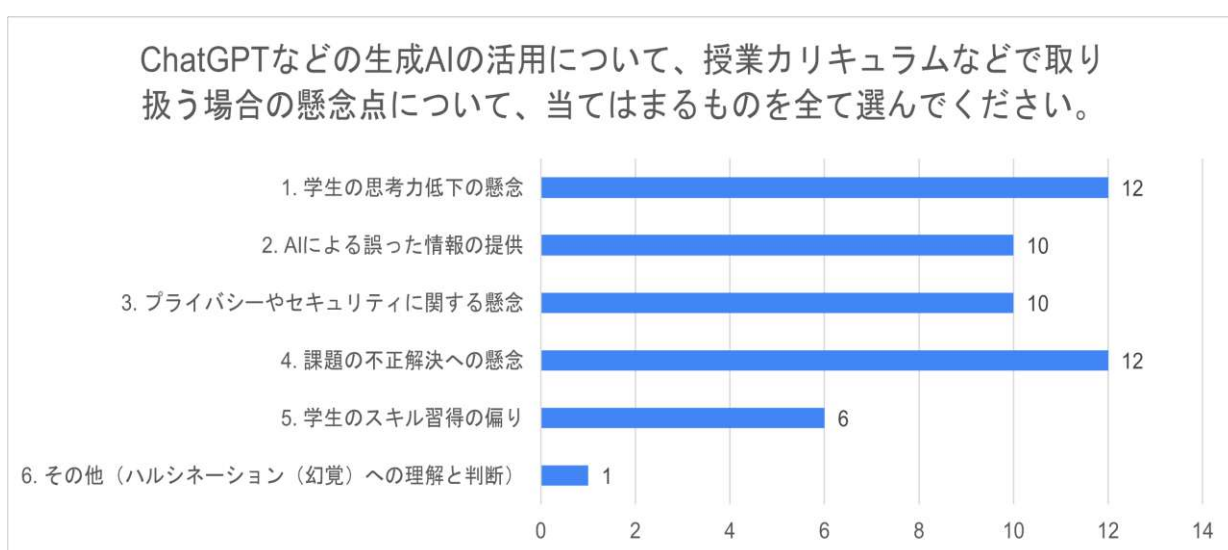
1. 学校すべてにおいて使用を認めている	4
2. 一部制限をしながら授業カリキュラム等で使用を認めている	5
3. 指導教員による許可を認めた場合など限定的な使用を認めている	11
5. その他(使用について取り決めていない)	1



本調査の回答で多いものから順に、指導教員による許可を認めた場合など限定的な使用を認めている 11 件、一部制限をしながら授業カリキュラム等で使用を認めている 5 件、学校すべてにおいて使用を認めている 4 件であった。生成 AI の活用に関しては慎重な姿勢を見せる学校が多い。

【問3-5】 ChatGPTなどの生成AIの活用について、授業カリキュラムなどで取り扱う場合の懸念点について、当てはまるものを全て選んでください。

1. 学生の思考力低下の懸念	12
2. AIによる誤った情報の提供	10
3. プライバシーやセキュリティに関する懸念	10
4. 課題の不正解決への懸念	12
5. 学生のスキル習得の偏り	6
6. その他(ハルシネーション(幻覚)への理解と判断)	1



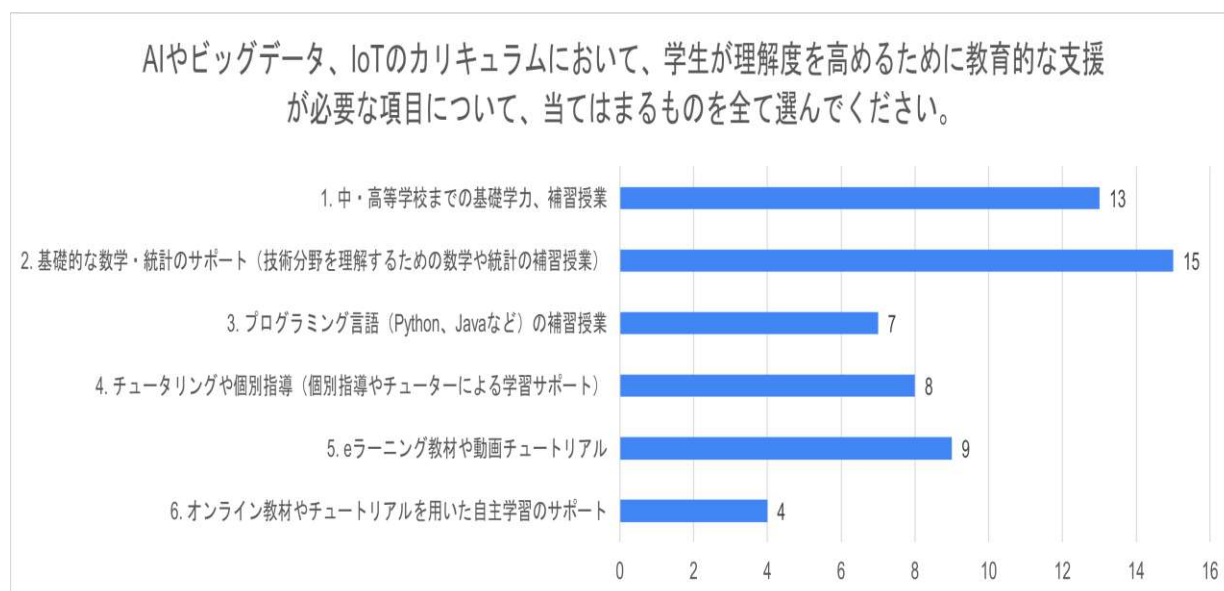
本調査の回答で多いものから順に、学生の思考力低下の懸念・課題の不正解決への懸念 12 件、AIによる誤った情報の提供・プライバシーやセキュリティに関する懸念 10 件であった。いずれも全体の約半数の学校が回答しているため、学校側の懸念点は多くが重なっていることが分かる。



#### 4. ITやAI関連の学科を想定した教育支援の状況と必要な対応

【問4-1】 AIやビッグデータ、IoTのカリキュラムにおいて、学生が理解度を高めるために教育的な支援が必要な項目について、当てはまるものを全て選んでください。

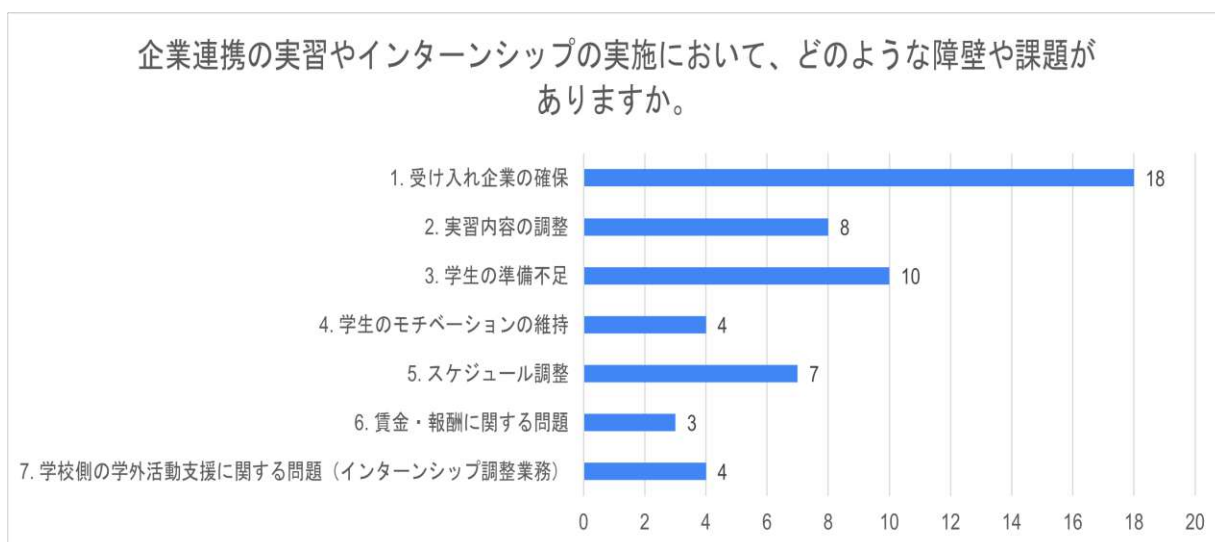
1. 中・高等学校までの基礎学力、補習授業	13
2. 基礎的な数学・統計のサポート(技術分野を理解するための数学や統計の補習授業)	15
3. プログラミング言語(Python、Java など)の補習授業	7
4. チュータリングや個別指導(個別指導やチューターによる学習サポート)	8
5. eラーニング教材や動画チュートリアル	9
6. オンライン教材やチュートリアルを用いた自主学習のサポート	4



本調査の回答で多いものから順に、基礎的な数学・統計のサポート(技術分野を理解するための数学や統計の補習授業)15件、中・高等学校までの基礎学力、補習授業 13件、eラーニング教材や動画チュートリアル 9件であった。基礎的な学習に支援が必要と感じる学校が多い。

【問4-2】企業連携の実習やインターンシップの実施において、どのような障壁や課題がありますか。  
 当てはまるもの全て選んでください。

1. 受け入れ企業の確保	18
2. 実習内容の調整	8
3. 学生の準備不足	10
4. 学生のモチベーションの維持	4
5. スケジュール調整	7
6. 賃金・報酬に関する問題	3
7. 学校側の学外活動支援に関する問題(インターンシップ調整業務)	4

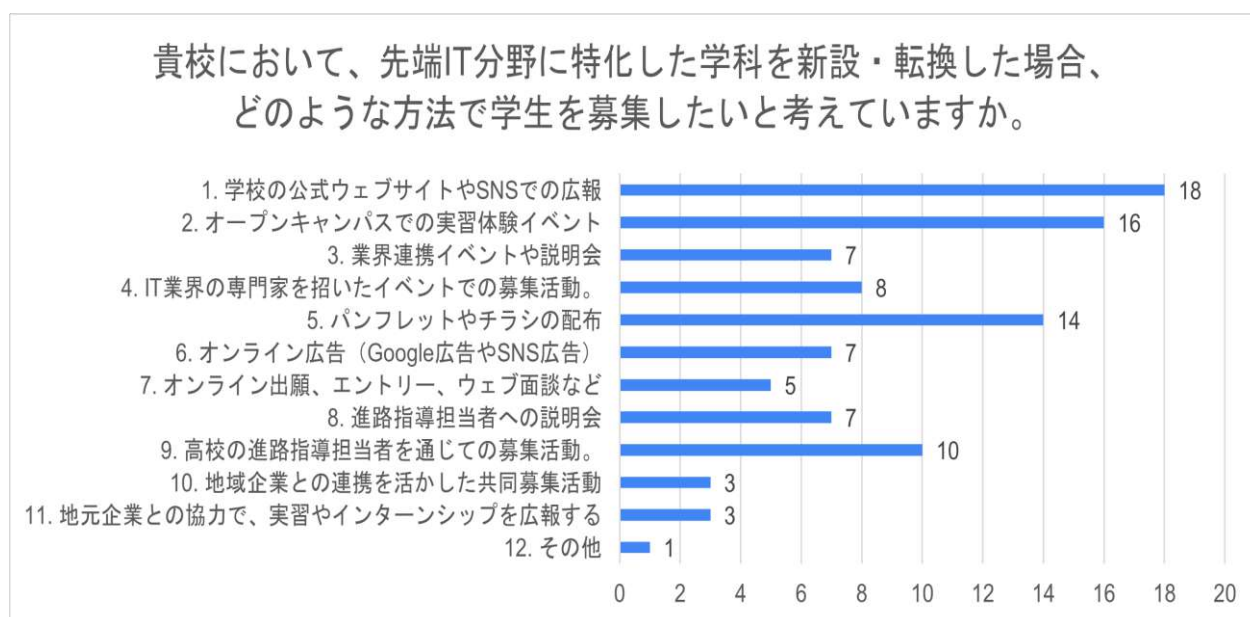


本調査の回答で多いものから順に、受け入れ企業の確保 18 件、学生の準備不足 10 件、実習内容の調整 8 件であった。外部との連携や調整に課題を感じる学校が多くあることが分かる。

## 5. 学生募集活動の状況

【問5-1】貴校において、先端IT分野に特化した学科を新設・転換した場合、どのような方法で学生を募集したいと考えていますか。当てはまるものを全て選んでください。

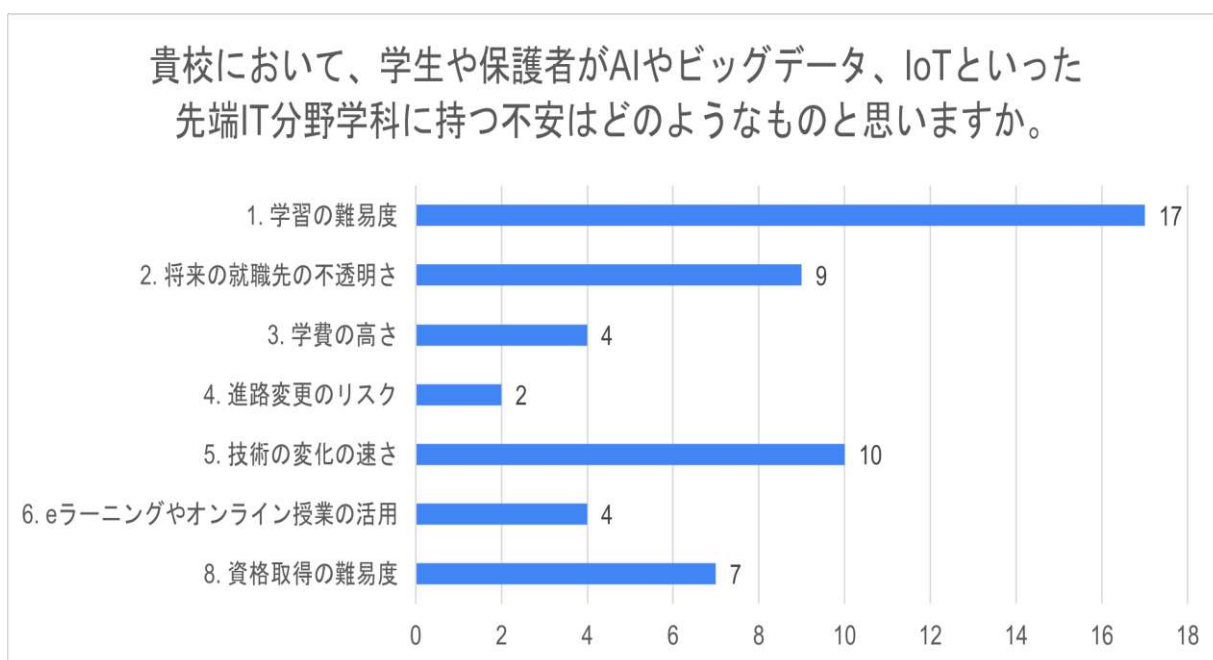
1. 学校の公式ウェブサイトや SNS での広報	18
2. オープンキャンパスでの実習体験イベント	16
3. 業界連携イベントや説明会	7
4. IT 業界の専門家を招いたイベントでの募集活動。	8
5. パンフレットやチラシの配布	14
6. オンライン広告(Google 広告や SNS 広告)	7
7. オンライン出願、エントリー、ウェブ面談など	5
8. 進路指導担当者への説明会	7
9. 高校の進路指導担当者を通じての募集活動。	10
10. 地域企業との連携を活かした共同募集活動	3
11. 地元企業との協力で、実習やインターンシップを広報する	3
12. その他	1



本調査の回答で多いものから順に、学校の公式ウェブサイトや SNS での広報 18 件、オープンキャンパスでの実習体験イベント 16 件、パンフレットやチラシの配布 14 件であった。IT 特化の学科として特別な募集方法をとる学校は少なく、従来の募集方法を継続する傾向が見られる。

【問5-2】貴校において、学生や保護者がAIやビッグデータ、IoTといった先端IT分野学科に持つ不安はどのようなものと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。

1. 学習の難易度	17
2. 将来の就職先の不透明さ	9
3. 学費の高さ	4
4. 進路変更のリスク	2
5. 技術の変化の速さ	10
6. eラーニングやオンライン授業の活用	4
8. 資格取得の難易度	7

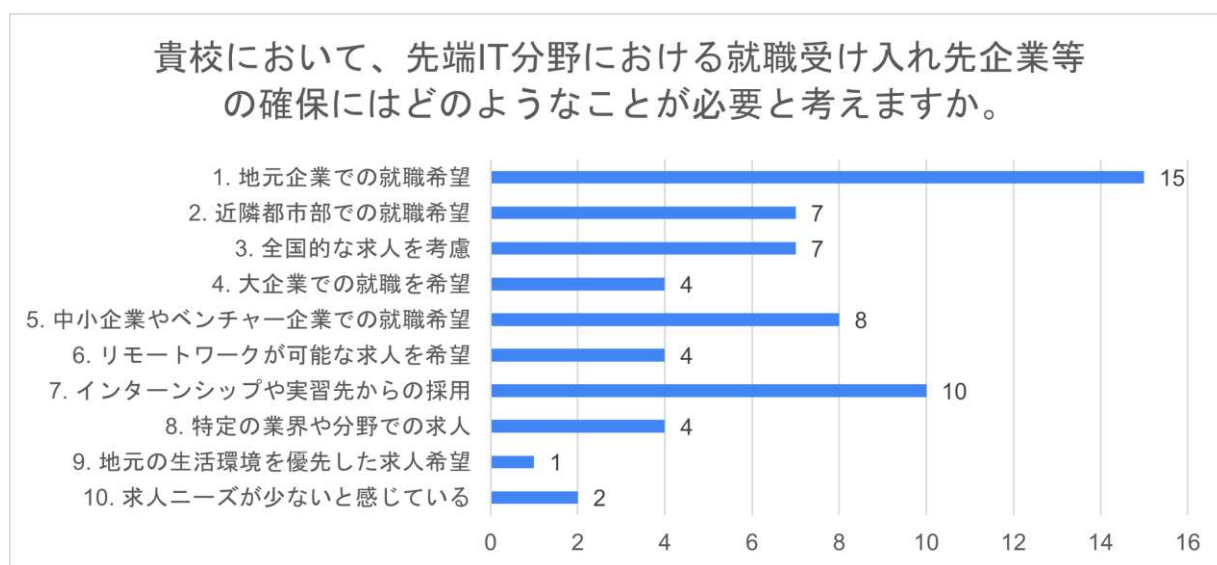


本調査の回答で多いものから順に、学習の難易度 17 件、技術の変化の速さ 10 件、将来の就職先の不透明さ 9 件であった。AI やビッグデータの理解度によって不安感を抱きやすい項目が多く回答されている。

## 6. 就職活動の状況

【問6-1】 貴校において、先端IT分野における就職受け入れ先企業等の確保にはどのようなことが必要と考えますか。当てはまるものを全て選んでください

1. 地元企業での就職希望	15
2. 近隣都市部での就職希望	7
3. 全国的な求人を考慮	7
4. 大企業での就職を希望	4
5. 中小企業やベンチャー企業での就職希望	8
6. リモートワークが可能な求人を希望	4
7. インターンシップや実習先からの採用	10
8. 特定の業界や分野での求人	4
9. 地元の生活環境を優先した求人希望	1
10. 求人ニーズが少ないと感じている	2



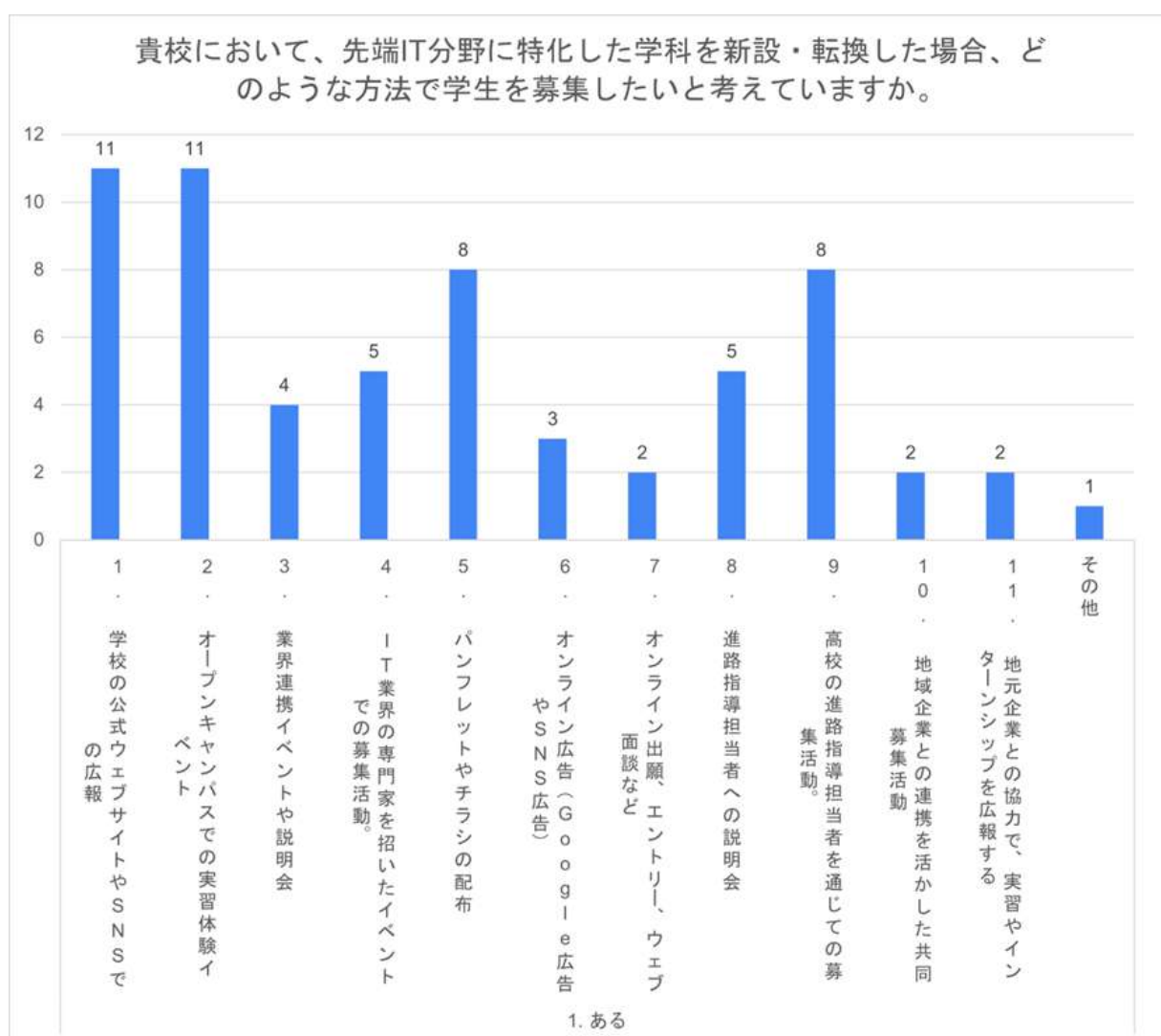
本調査の回答で多いものから順に、地元企業での就職希望 15 件、インターンシップや実習先からの採用 10 件、中小企業やベンチャー企業での就職希望 8 件であった。身近なつながりを中心とした企業先の確保への必要性を感じる学校が多い。

## 7. 自由記述

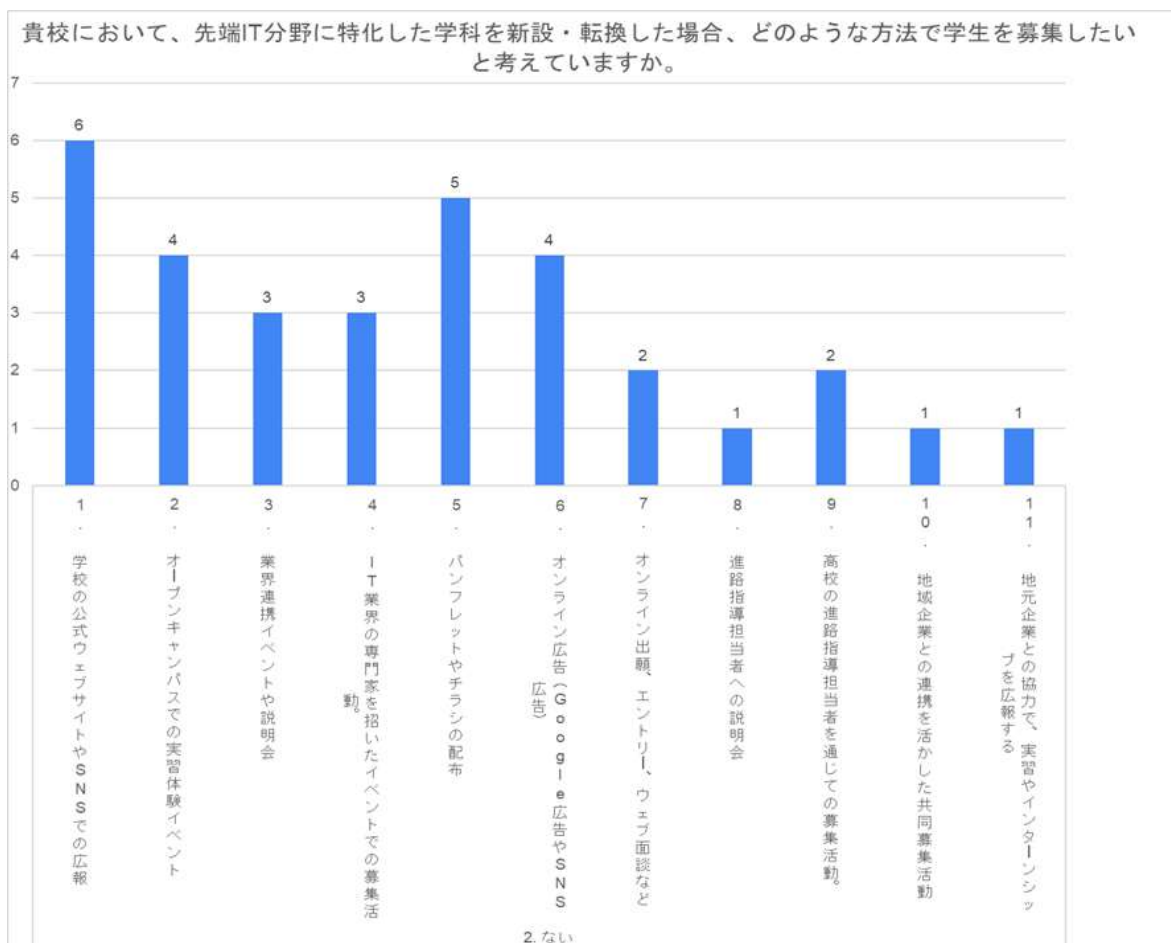
問7-1. これまでの質問内容以外で、専門学校のリ系学科設置及び理系学科への転換等についてご意見があれば記入してください。

・ITの普及による学習は変化すると思われるが、当学校は難易度が高いと考えます。

【クロス集計①】 入学者減少×学生募集方法、募集方法×カリキュラムの優先度

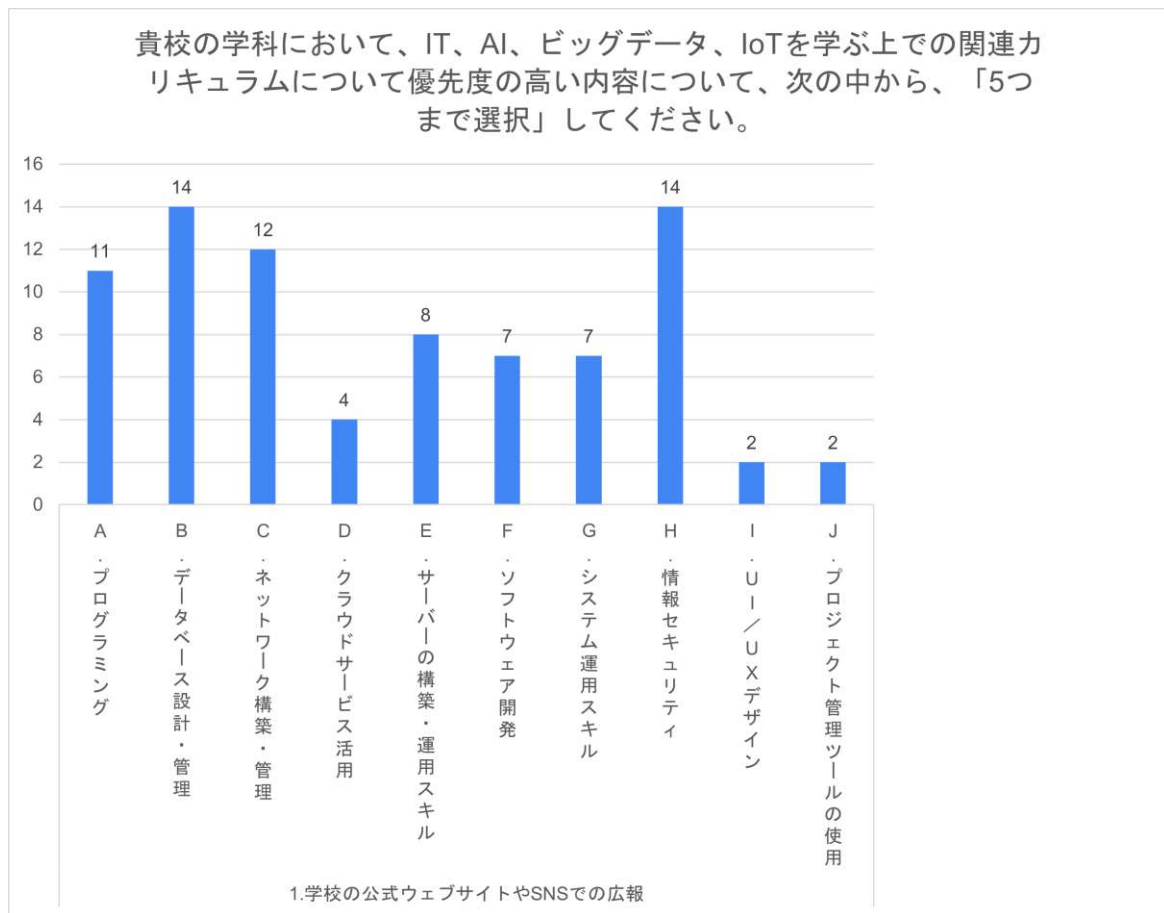


入学者減少が「ある」とした学校では、学生募集方法として最も支持されたのは「学校の公式ウェブサイトや SNS での広報」と「オープンキャンパスでの実習体験イベント」であり、それぞれ 11 件となっている。次いで「パンフレットやチラシの配布」と「高校の進路指導担当者を通じた募集活動」が 8 件と高い結果である。一方で「オンライン広告や SNS 広告」や「オンライン出願、エントリー、ウェブ面談」などオンラインを活用した手法は比較的低調で、2～3 件にとどまっている。

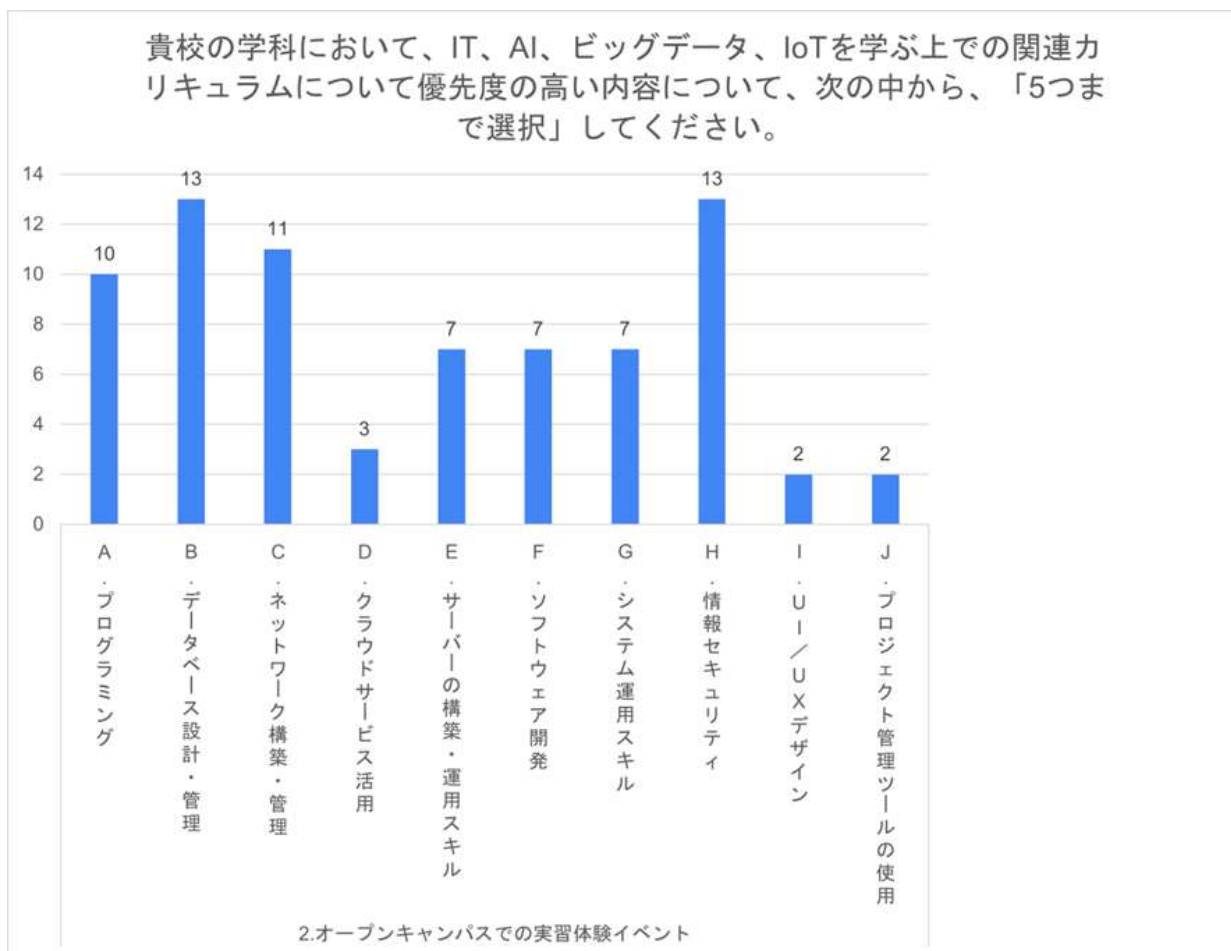


入学者減少が「ない」と答えた学校においては、学生募集方法として最も支持されたのは「学校の公式ウェブサイトや SNS での広報」(6 件)である。次いで「パンフレットやチラシの配布」(5 件)、「オープンキャンパスでの実習体験イベント」や「オンライン広告」(各 4 件)が続いている。一方で「業界連携イベントや説明会」「IT 業界の専門家を招いたイベントでの募集活動」は各 3 件にとどまっており、「地元企業との連携を活かした共同募集活動」や「進路指導担当者への説明会」はそれぞれ 1 件と少ない結果であった。

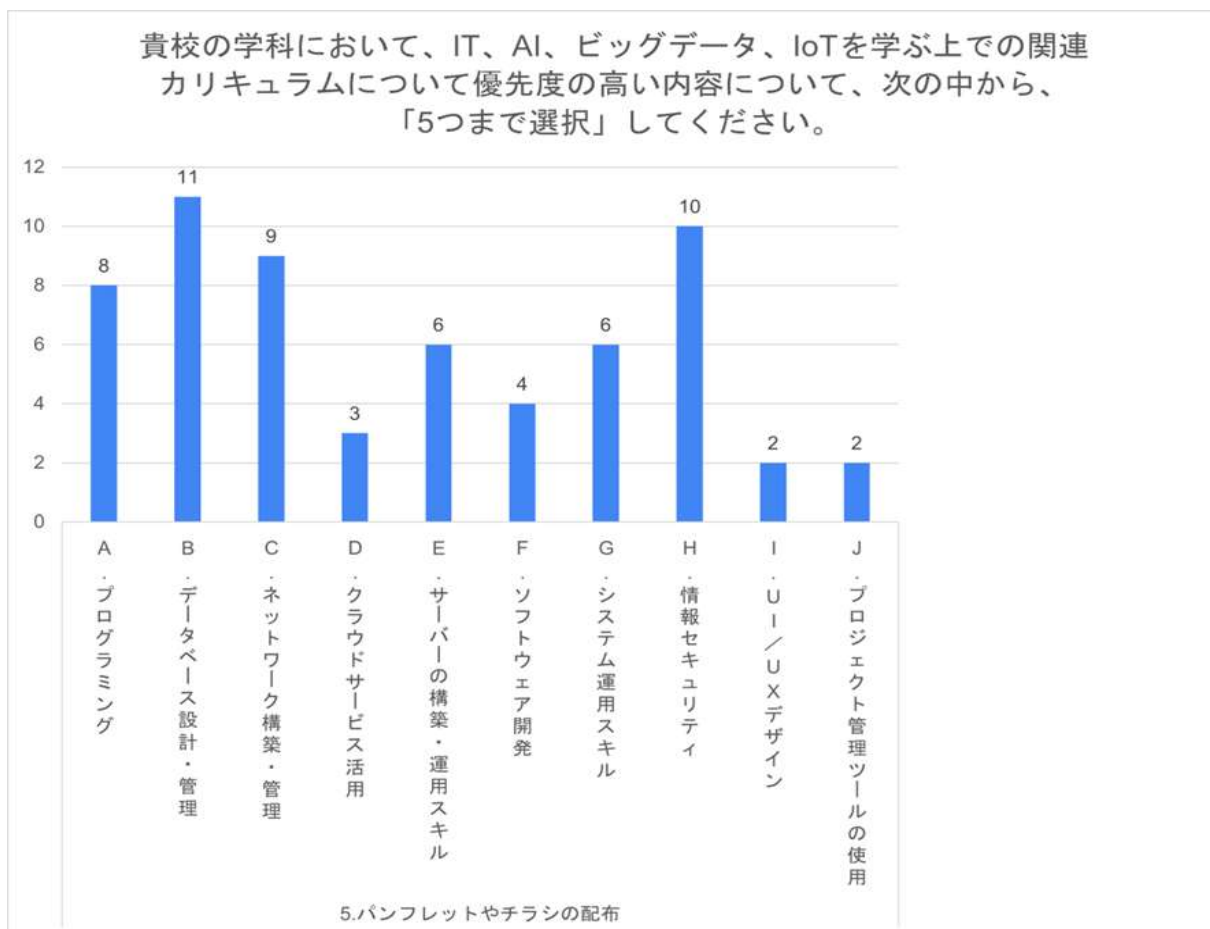




学生募集活動において、「学校の公式ウェブサイトやSNS」を回答した学校において、IT、AI、ビッグデータ、IoT 関連のカリキュラムで優先度の高い内容として最も支持されたのは「データベース設計・管理」(14 件)と「情報セキュリティ」(14 件)であった。次いで「プログラミング」(11 件)が高い支持を集めている。一方、「サーバーの構築・運用スキル」(8 件)や「システム運用スキル」「ソフトウェア開発」(各 7 件)が中程度の支持を得ており、「クラウドサービス活用」(4 件)や「UI／UX デザイン」「プロジェクト管理ツールの使用」(各 2 件)は比較的低い結果となっている。



学生募集活動において、「オープンキャンパスでの実習体験イベント」を回答した学校では、IT、AI、ビッグデータ、IoT 関連のリキュラムで優先度の高い内容として最も支持されたのは「データベース設計・管理」(13 件)と「情報セキュリティ」(13 件)であった。次いで「プログラミング」(10 件)、「ネットワーク構築・管理」(11 件)が高い支持を集めている。一方、「サーバーの構築・運用スキル」「ソフトウェア開発」「システム運用スキル」(各 7 件)が中程度の支持にとどまり、「クラウドサービス活用」(3 件)や「UI/UX デザイン」「プロジェクト管理ツールの使用」(各 2 件)は比較的低い結果となっている。



学生募集活動において、「パンフレットやチラシの配布」と回答した学校では、IT、AI、ビッグデータ、IoT 関連のリキュラムで優先度の高い内容として最も支持されたのは「データベース設計・管理」(11 件)と「情報セキュリティ」(10 件)である。次いで「プログラミング」(8 件)や「ネットワーク構築・管理」(9 件)が支持を集めている。一方、「サーバーの構築・運用スキル」「システム運用スキル」(各 6 件)や「ソフトウェア開発」(4 件)は中程度の支持にとどまっており、「クラウドサービス活用」(3 件)、「UI/UX デザイン」「プロジェクト管理ツールの使用」(各 2 件)は比較的低い結果となっている。

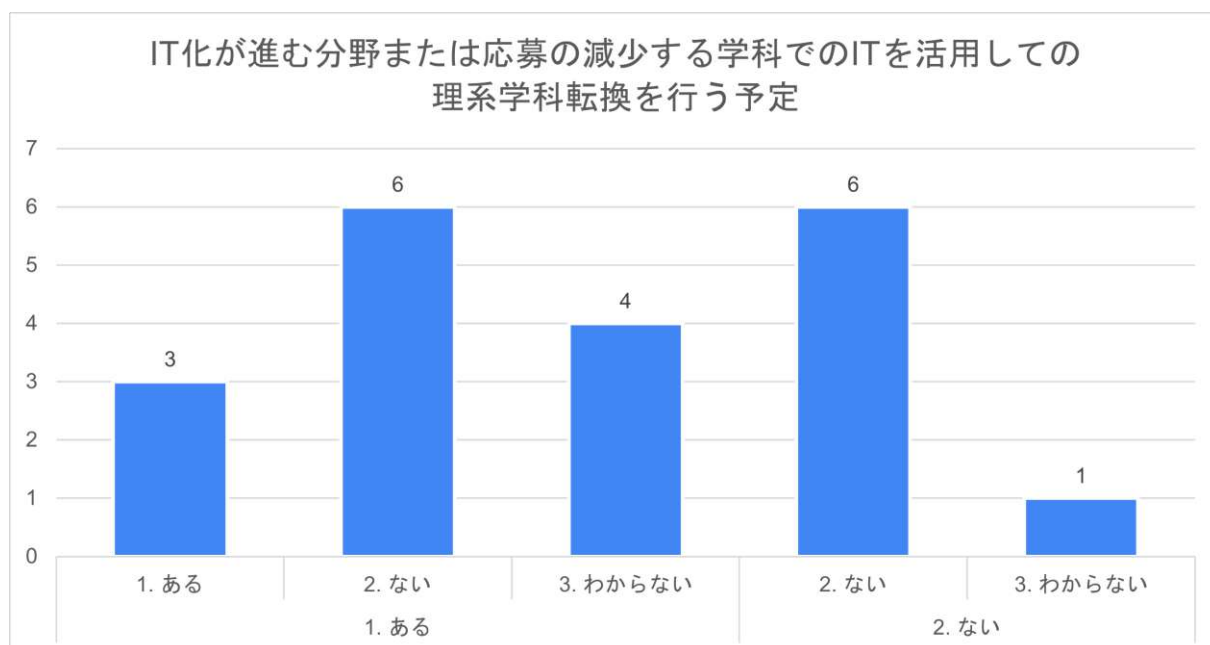
## 【クロス集計①:考察】

入学者減少の有無と学生募集方法、学生募集方法とカリキュラムの優先度についてクロス集計を行った結果、いくつかの傾向が見られた。入学者減少の有無にかかわらず、学校情報の SNS 発信やパンフレット配布が主要な募集方法として多くの学校で取り入れられている。これは、情報発信力が高く、手軽に多くの学生にリーチできる点で、共通して重要視されていることが伺える。

一方、入学者減少がない学校ではオンライン広告の活用と比較的多くの票が集まっており、デジタル広告の活用が新たな層へのリーチ拡大や入学者維持に寄与している可能性がある。対照的に、入学者減少の学校では伝統的な方法に重きを置いている傾向が見られる。

学生募集方法とカリキュラムの優先度については、「SNS 広報」と「オープンキャンパスでの実習体験」の両方を取り入れている学校が多くあったため、カリキュラムの優先順位の傾向も全体的に大きな差はなかった。特に「データベース設計・管理」「情報セキュリティ」および「プログラミング」が高い優先度を示しており、これらの分野が現代の IT 教育において重要視されていることが明確となった。ただし、パンフレット配布の学校では「ソフトウェア開発」の票がやや少なくなる傾向が見られたが、全体的な割合や傾向には大きな変化は見られなかった。この結果から、学生募集方法と学校の方針に応じて決めるカリキュラムの優先順位には相関がみられなかった。

【クロス集計②】 学科の減少傾向×理系学科への転換意向



「学科の減少傾向」と「理系学科への転換意向」のクロス集計結果では、理系学科転換の意向が「ない」と回答した学校が最も多く6件となっている。一方で、「ある」と回答した学校は3件にとどまっており、理系学科への転換意向が現段階では少数派であることがわかる。また、「わからない」と回答した学校も複数(4件)見られ、現時点では判断がついていない学校も一定数存在することが示された。

この結果から、学科の応募減少傾向が進む中でも、IT分野を活用した理系学科への転換を積極的に考えている学校は限定的であり、多くの学校は現状維持や他の施策を模索していると推察される。また、「わからない」の回答が一定数あることから、理系転換の必要性や具体的な方針に対する検討が進んでいない、あるいは不確定要素が残っている学校も多いことが考えられる。

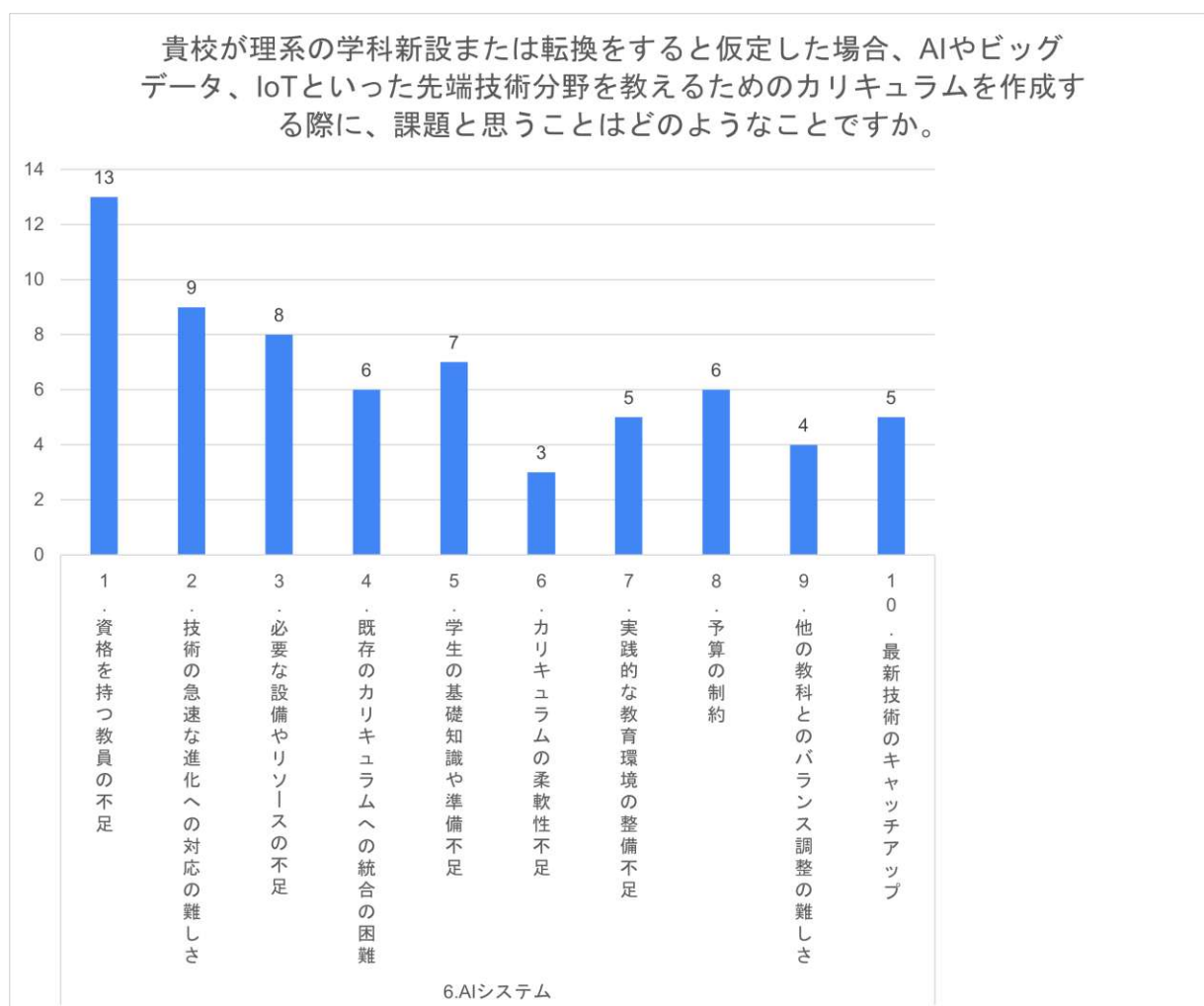
## 【クロス集計②:考察】

学科の減少傾向と理系学科転換の意向についてクロス集計を行った結果、いくつかの特徴が明らかになった。学科の減少傾向がある学校では、理系学科への転換を検討している学校が一定数見られたことから、学科応募の減少対策として IT や理系分野への転換を模索する動きがあると考えられる。一方で、学科の減少傾向が見られない学校の中では、理系学科への転換予定が「ある」と回答した学校はなく、現状の学科構成に満足しており、転換の必要性を感じていないことが推察される。

また、「わからない」と回答した学校も一定数存在し、転換に対する方針が未定である学校も多いことが示された。これは、理系学科への転換が新たな施策として有効かどうか、各校が慎重に判断している過程にあると考えられる。理系学科への転換は IT 分野の需要拡大に伴い魅力的な選択肢となる一方で、その実現にはカリキュラム整備や専門教員の確保が必要であり、ハードルが高いことも影響している可能性がある。

総じて、学科の減少傾向が進む学校ほど理系学科転換への意向が高い一方、現状で安定している学校では現行の学科体制を維持する傾向が見られる。

### 【クロス集計③】 IT 技術教育の必要性×導入における課題

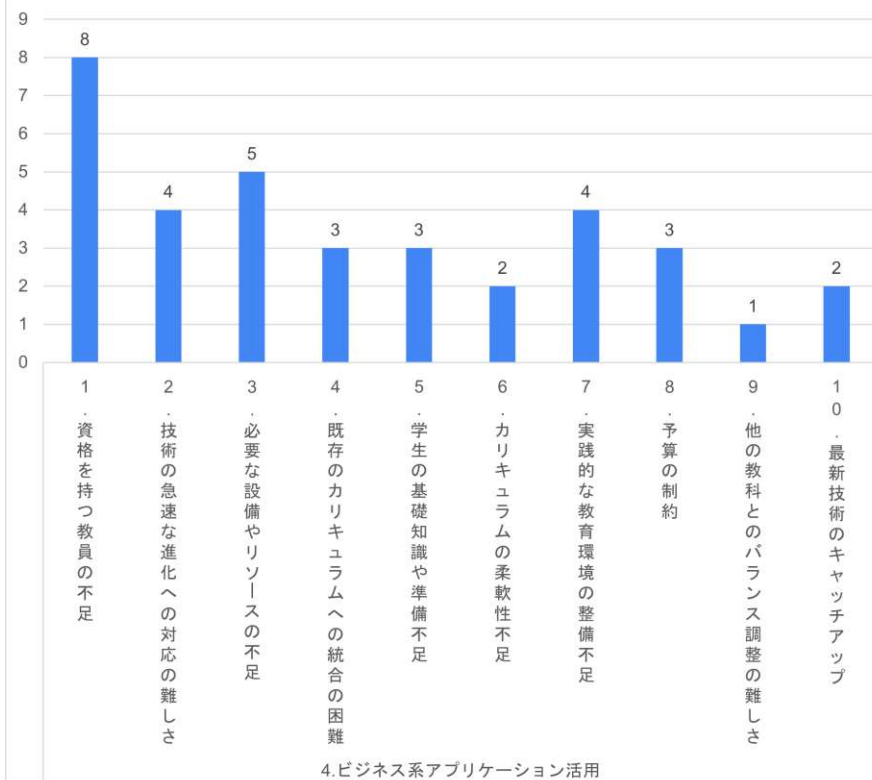


IT技術教育の必要性と導入における課題のクロス集計では、以下の傾向が見られた。導入において最も大きな課題として挙げられたのは「資格を持つ教員の不足」(13件)であり、専門技術分野を教えるための人的リソースが不足している現状が浮き彫りとなった。次いで「技術の急速な進化への対応の難しさ」(9件)や「必要な設備やリソースの不足」(8件)も高い課題意識が示されており、IT教育にはハード面・ソフト面双方での対応が求められている。

また、「既存のカリキュラムの統合の困難さ」(6件)や「学生の基礎知識や準備不足」(7件)も挙げられており、新しい技術教育を導入する際には、従来のカリキュラムとの整合性や学生側の理解度の向上が課題となることが示された。

さらに、「予算の制約」(6件)や「実践的な教育環境の整備不足」(5件)も指摘され、IT教育には一定の投資が必要である一方、財政的な制約が導入の足かせとなっていることがわかる。最新技術のキャッチアップや他教科とのバランス調整も課題として挙げられており、総合的な視点での教育体制の見直しが求められている。

貴校が理系の学科新設または転換をすると仮定した場合、AIやビッグデータ、IoTといった先端技術分野を教えるためのカリキュラムを作成する際に、課題と思うことはどのようなことですか。



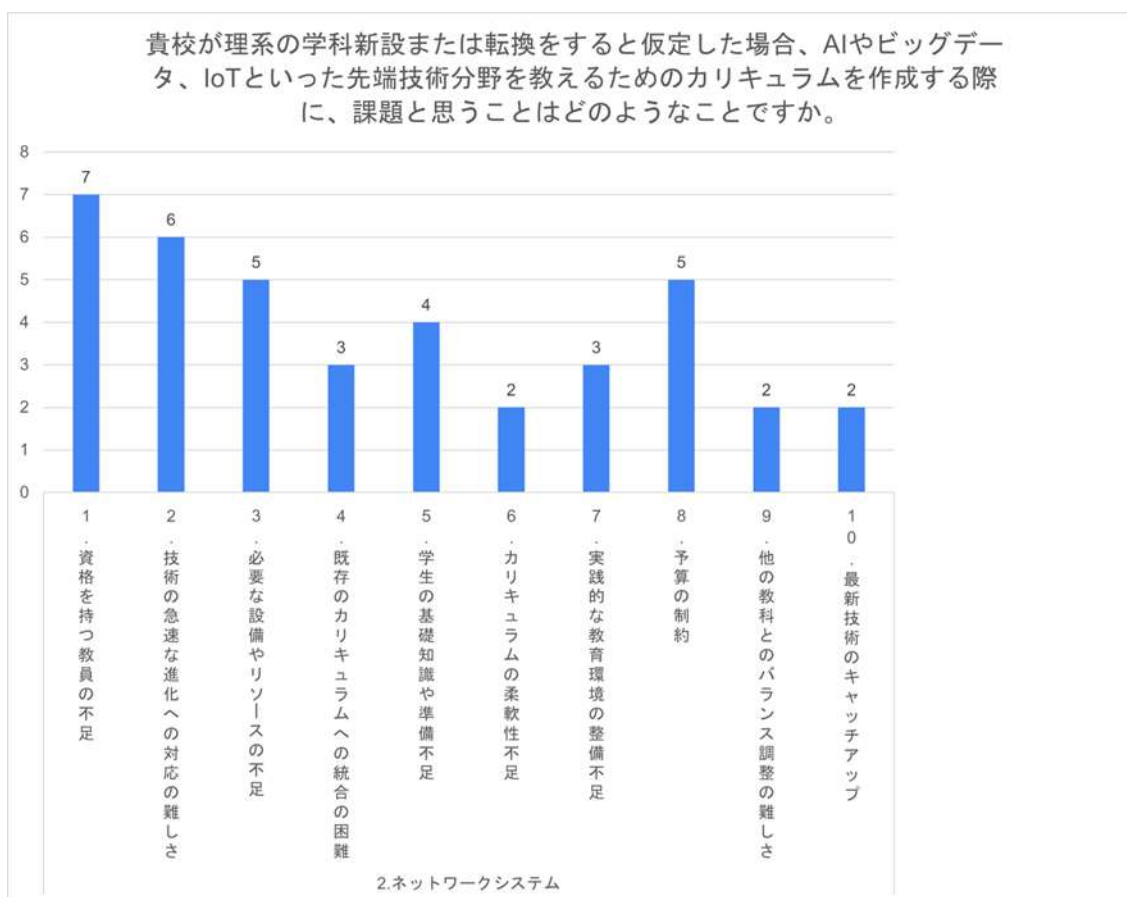
4. ビジネス系アプリケーション活用

ビジネス系アプリケーション活用に関連する課題として、最も多く挙げられたのは「資格を持つ教員の不足」(8件)である。これは前回のIT教育導入に関する課題と同様に、専門知識を有する指導者の確保が大きなボトルネックとなっていることを示している。次いで「必要な設備やリソースの不足」(5件)や「技術の急速な進化への対応の難しさ」(4件)が続き、ビジネス系IT技術の導入にもハード面とソフト面でのリソース不足が課題として浮き彫りになった。

また、「実践的な教育環境の整備不足」(4件)も指摘されており、実務に即した環境での学びを提供するためのインフラが不十分であることが伺える。その他、「既存のカリキュラムの統合の難しさ」「予算の制約」(各3件)も挙げられており、教育内容の見直しや柔軟なカリキュラム編成に関する問題も存在している。

一方で「学生の基礎知識や準備不足」(3件)や「カリキュラムの柔軟性不足」(2件)、「最新技術のキャッチアップ」(2件)も一定数見られたが、「他の教科とのバランス調整の難しさ」(1件)については比較的少数であった。





ネットワークシステムに関連する課題として最も多く挙げられたのは、「資格を持つ教員の不足」(7件)であり、専門知識を有する教員の確保が依然として最大の課題であることが示された。次いで「技術の急速な進化への対応の難しさ」(6件)や「必要な設備やリソースの不足」(5件)も課題として高く挙げられており、IT技術の急速な変化に伴い、教育環境や設備の整備が追いついていない現状が浮き彫りとなった。

また、「予算の制約」(5件)も挙げられており、教育体制の整備や技術導入には財政的な支援が不可欠であることがわかる。次に、「学生の基礎知識や準備不足」(4件)や「既存のカリキュラムの統合の困難さ」(3件)も課題となっており、学生側の理解度や現行カリキュラムとの整合性を考慮しながら進める必要性が示唆される。

さらに、「カリキュラムの柔軟性不足」(3件)や「実践的な教育環境の整備不足」(3件)も一定数挙げられ、学びの実践環境や教育内容の柔軟な設計が求められている。一方、「他の教科とのバランス調整の難しさ」(2件)や「最新技術のキャッチアップ」(2件)は少数ながらも課題として存在している。

### 【クロス集計③:考察】

IT技術教育の必要性(問2-1-8)とその課題(問3-3)についてクロス集計を行った結果、資格を持つ教員の不足がすべての分野において共通する最大の課題であることが明らかになった。これは、IT分野の専門知識を有する人材の確保が難しく、教育体制を整備する上で大きな障壁となっていることを示している。

分野別の特徴として、AIシステムでは「学生の基礎知識や準備不足」の割合が他の分野に比べてやや高く、最先端技術を学ぶためには学生自身の事前知識や学力の向上が求められていることが分かる。一方、ネットワークシステムでは「予算の制約」の割合がやや高く、設備投資や運用コストが重い負担となっていることが示された。

また、すべての分野で「必要な設備やリソースの不足」や「技術の急速な進化への対応の難しさ」も課題として挙げられており、ハード面とソフト面双方の整備が急務であることがわかる。これに加え、「カリキュラムの柔軟性不足」や「実践的な教育環境の整備不足」も共通する課題となっており、教育内容の最適化と実務に即した学習環境の提供が求められている。

総じて、IT技術教育を導入・強化するには、教員や設備の不足を補う体制づくり、学生の基礎力向上、予算支援が重要であり、分野ごとの課題に応じた対策が必要であると考えられる。

## 4. 講評

---

### 「先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業」アンケート調査 結果報告

#### 1. 調査の概要まとめ

- ・調査目的: 既存の専門学校における理系学科(特に IT 関連)への転換・新設意向を把握し、その現状と課題を明らかにする。
- ・調査対象: 全国(または特定地域)の専門学校
- ・調査方法: アンケート調査
- ・調査期間: 2024年11月1日～11月25日
- ・調査項目: 学校概要、学科状況、IT 教育の現状、理系学科への転換意向、カリキュラムに関する意向、学生募集、就職活動など
- ・回答学校数: 21校

本調査は、文部科学省委託事業「先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業」の一環として、全国の専門学校を対象に実施されたものである。調査結果から、専門学校が社会のニーズに応え、AI、データ分析、IoT といった先端 IT 技術への関心が非常に高いことが明らかになった。一方で、理系学科の新設や既存学科の転換には専門教員の不足、設備リソースの限界、学生側の基礎学力不足など、具体的な課題が浮き彫りになった。

#### 2. 主な調査結果

##### ・IT 分野への関心

多くの学校が AI、データ分析、IoT などの先端技術分野に強い関心を示しており、これらを学ぶカリキュラムを導入したいと考えている学校が多かった。特に生成 AI やデータ活用は企業のニーズとも合致し、今後の重点分野となることが期待される。

##### ・理系学科への転換・新設

一部の学校では IT 関連学科の新設や既存学科の転換を検討しているものの、導入のハードルとして「教員の専門知識不足」が共通課題となっている。また、ネットワークシステム分野では「予算の制約」、AI 分野では「学生の基礎知識・準備不足」の割合が高く、それぞれの分野ごとに異なる課題も指摘された。

##### ・課題

すべての分野で最も多く挙げられた課題は資格を持つ教員の不足であり、専門的な IT 教育を担う人材の育成や確保が急務であることが示された。また、ハード面では「必要な設備やリソースの不足」、ソフト面では「カリキュラムの柔軟性」や「教育環境の整備不足」も課題として挙げられた。これに加え、IT 技術は急速に進化しており、最新技術に対応する体制が整っていない点も懸念材料となっている。

#### ・学生募集

学生募集については、「学校の公式ウェブサイトや SNS」「オープンキャンパスでの実習体験」「パンフレット配布」が主要な方法として継続されていることが分かった。入学者減少傾向にある学校は従来の手法に依存する傾向が強いが、減少が見られない学校ではオンライン広告やデジタル施策を取り入れる動きが確認された。

#### ・学生の不安と就職活動

学生側の不安として、「学習の難易度」「将来の就職先の不透明さ」が挙げられている。また、就職活動に関しては「地元企業」での就職希望が多く、インターンシップや実習先からの採用を期待する声もあった。

### 3. 考察

本調査結果から、専門学校が社会の変化に適応しようとする姿勢が明確に見られた。AI やデータ分析といった先端 IT 分野に関心が高い一方で、理系学科への転換・新設には教員の不足、設備の不十分さ、学生の準備不足などの課題が深刻であることがわかった。

AI 分野では学生の基礎学力や準備の不足が特に顕著であり、初学者でも学びやすい基礎カリキュラムの整備が求められる。また、ネットワークシステム分野では、予算の制約が課題となっており、導入には財政支援や設備投資が不可欠であることが示唆された。

### 4. 今後の展望

- ・専門学校が IT 人材を育成し、理系学科を成功させるためには以下の点が重要である。
- ・教員の育成と確保: IT 分野の専門知識を持つ教員の養成と採用を強化する。
- ・カリキュラムの開発: 産業界のニーズを踏まえ、実務に即した柔軟なカリキュラムを設計する。
- ・設備投資と財政支援: 教育に必要なハードウェアやソフトウェアの導入を進め予算支援を確保する。
- ・産学連携の強化: 企業と連携し、インターンシップや共同研究の機会を増やす。
- ・学生への基礎教育強化: 初学者に対応した基礎カリキュラムを整備し、学びやすい環境を提供する。
- ・広報活動: 学校の特色や IT 教育の強みを強化し、積極的な情報発信を行う。

### 5. まとめ

本調査の結果から、多くの専門学校が AI、データ分析、IoT などの分野に期待を寄せている一方で、導入には教員不足や設備リソース、学生の基礎力不足といった多くの課題が存在することが明らかになった。これらの課題に対応するためには、教員の育成や設備投資、柔軟なカリキュラムの開発、産学連携の推進など、多角的な取り組みが求められる。

本調査は、専門学校が理系学科を設置し、社会の IT 人材ニーズに応えるための重要な指針となることが期待される。特に、技術進化が著しい分野においては、常に最新の知識を取り入れ、現場で活躍できる人材を育成するための体制づくりが不可欠である。

# 5. アンケート調査票

## 専門学校対象

2024年度 文部科学省委託事業 理系学科への転換・新設に関する意向アンケートです。

## 「先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業」アンケート調査

- 調査基準日：2024年11月1日
- 提出期限：2024年11月25日
- 諸注意：この調査票に記入された事項は、学校法人穴吹学園穴吹ビジネス専門学校の個人情報保護規程に従い厳重に管理し、当調査の目的以外には使用いたしません。
- アンケート回答時間目安 15分

〈記入にあたってのお願い〉

- ◆本調査票へのご回答は、封筒宛名に記載された学校・学科の担当者様において記入してください。
  - ◆選択肢が用意されている場合はあてはまるものに○を、記入欄が用意されている場合は所定の位置に記入してください。
  - ◆本アンケートの回答は、以下のいずれかの方法でご提出いただけます。
    - ①このアンケート用紙に直接ご記入の上、返信用封筒にてご返送ください。
    - ②オンラインでの回答をご希望の場合は、右のQRコードからアクセスし、必要事項をご入力ください（アンケート用紙の返送は不要です）。
- ※①と②の回答方法が重複することのないようご協力ください。



### 1. 専門学校の基本情報

学校様回答 QR コード

問1-1 貴校の概要について下記に記入してください。

1. 学校所在地	( ) 都・道・府・県 / ( ) 市・町・村
2. 設置学科の分野	1. ビジネス                      2. デザイン 3. 工業                            4. IT 5. 医療・社会福祉            6. 農業 7. その他 ( )
3. 回答者の所属	1. 経営者   2. 学校長   3. 学科長・教務主任   4. 専任教員 5. 専任職員   6. その他 ( )

### 2. 設置学科の状況及び今後の貴校の予定

問2-1 貴校の学科状況について記入してください。

1. 設置学科で入学者が減少している学科は何ですか。	1. ある (学科名 ) 前年度比 ( ) %減少 (学科名 ) 前年度比 ( ) %減少 (学科名 ) 前年度比 ( ) %減少
	2. ない
2. 今後募集を強化する学科は何ですか。	1. ある (学科名 ) (1学年定員予定 名) (学科名 ) (1学年定員予定 名) (学科名 ) (1学年定員予定 名)
	2. ない
	3. わからない

<p>3. IT化が進む分野または応募の減少する学科でのITを活用しての理系学科転換を行う予定はありますか。</p>	<p>1. ある  (学科名 ) (1学年定員予定 名)  (学科名 ) (1学年定員予定 名)  (学科名 ) (1学年定員予定 名)  2. ない  3. わからない</p>
<p>4. 現在取り入れているICT教育は何ですか (複数回答可)。</p>	<p>1. 生成AIの活用力 2. データ分析力  3. Webページ作成 4. オンラインミーティング活用  5. ビジネス系アプリケーション活用  6. Microsoft-Teams、google等オンラインクラス運営サービス  7. ない  8. その他 ( )</p>
<p>5. IT系学科以外でも、必要と思うICT教育は何ですか (複数回答可)。</p>	<p>1. 生成AIの活用力 2. データ分析力  3. Webページ作成 4. オンラインミーティング活用  5. ビジネス系アプリケーション活用  6. Microsoft-Teams、google等オンラインクラス運営サービス  7. ない  8. その他 ( )</p>
<p>6. 学科の授業の教材として、利用したいと思うAIは何ですか (複数回答可)。</p>	<p>1. データ予測・分析  2. 事務業務の一連の手順自動化を支援するアプリ(RPAツール)  3. ChatGPTによる文書、アイデア等の生成  4. AIチャットボットによる対話型サポートサービス  5. 画像認識及びコンテンツ分析  6. デザイン生成AI  7. AIアシスタントによるプランニング  8. AIアプリ活用のバーチャルメイクやシミュレーション  9. VRなどを活用したバーチャル体験  10. その他 ( )</p>
<p>7. 理系学科の導入を検討するとしたら、どの分野に取り組みたいか (複数回答可)。</p>	<p>1. ビジネス 2. デザイン  3. 工業 4. IT  5. 医療・社会福祉 6. 農業  7. その他 ( )  8. わからない  9. 理系学科の導入はしない</p>
<p>8. IT系学科の設置を検討する場合、どのような分野に興味がありますか (3つ選択してください)。</p>	<p>1. 情報処理 2. ネットワークシステム  3. モバイルアプリ開発 4. ビジネス系アプリケーション活用  5. クラウドコンピューティング 6. AIシステム  7. ビックデータ 8. IoT  9. その他 ( )</p>
<p>9. 理系学科への転換または新設の学科を検討するうえで、重要な要素の順位づけをそれぞれの項目ごとに4段階評価を行ってください。</p>	<p>4段階評価 (A;とても重要である、B;重要である、C;どちらかと言えば重要ではない、D;重要でない)  1. 地域産業のニーズ ( A ・ B ・ C ・ D )  2. 学生の興味・需要 ( A ・ B ・ C ・ D )  3. 業界動向や技術トレンド ( A ・ B ・ C ・ D )  4. 教員の専門知識の確保 ( A ・ B ・ C ・ D )  5. 学習設備や技術環境の整備 ( A ・ B ・ C ・ D )  6. 学生の基礎学力や準備レベル ( A ・ B ・ C ・ D )</p>

10. 理系学科の転換または新設の学科を検討するうえで、eラーニングの導入を検討しますか。	1. 導入する 2. 導入しない 3. わからない
---	---------------------------------

3. ITやAI関連の学科を想定した教育内容、カリキュラムの意向

問3-1 貴校の学科において、IT、AI、ビッグデータ、IoTを学ぶ上での関連カリキュラムについて優先度の高い内容について、次の中から、「5つまで選択」してください。

A. プログラミング	B. データベース設計・管理	C. ネットワーク構築・管理
D. クラウドサービス活用	E. サーバーの構築・運用スキル	F. ソフトウェア開発
G. システム運用スキル	H. 情報セキュリティ	I. UI/UXデザイン
J. プロジェクト管理ツールの使用		
K. その他 ( )		

問3-2 貴校が既存学科をAI関連の学科を新設又は既存学科を転換すると仮定した場合において、下記の【優先順位の選択項目】から選び優先順位を記号にて回答してください。

1. 教育内容やカリキュラムについて、どのような内容に重点を置きますか。	優先順位1位 ( ) 優先順位2位 ( ) 優先順位3位 ( )
2. AI関連の学科を運営するために、追加で必要な教員のIT専門分野は何ですか	優先順位1位 ( ) 優先順位2位 ( ) 優先順位3位 ( )
3. AI関連の学科にて、「eラーニング」を活用する場合、AIやビッグデータ、IT、IoT技術についてどのような分野で利用したいですか	優先順位1位 ( ) 優先順位2位 ( ) 優先順位3位 ( )
【優先順位の選択項目】	
A. 機械学習（機械学習アルゴリズムや応用技術の習得）	
B. データサイエンス（大規模データの分析や可視化技術の活用）	
C. IoT（モノのインターネット）	
D. IoTシステムの設計やセンサーデータ処理技術	
E. クラウドコンピューティング	
F. クラウド環境でのデータ処理やサービス開発	
G. ロボティクス（ロボット技術とAIの連携技術）	
H. 自然言語処理（NLP）	
I. ChatGPTなどの生成AIを活用した言語モデル技術の学習	
J. サイバーセキュリティ	
K. AI技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析	
L. AR/VR技術、モバイルアプリ開発	
M. 仮想現実の企画編集、アプリ作成支援の技術や学習	
N. その他 ( )	

問3-3 貴校が理系の学科新設または転換をすると仮定した場合、AIやビッグデータ、IoTといった先端技術分野を教えるためのカリキュラムを作成する際に、課題と思うことはどのようなことですか。当てはまるもの全てを選んでください。

1. 資格を持つ教員の不足	2. 技術の急速な進化への対応の難しさ
3. 必要な設備やリソースの不足	4. 既存のカリキュラムへの統合の困難
5. 学生の基礎知識や準備不足	6. カリキュラムの柔軟性不足
7. 実践的な教育環境の整備不足	8. 予算の制約
9. 他の教科とのバランス調整の難しさ	10. 最新技術のキャッチアップ
11. その他 ( )	

問3-4 貴校において、ChatGPTなどの生成AIの活用について、授業カリキュラムなどでどのように取り扱っていますか。当てはまるものを全て選んでください。

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1. 学校すべてにおいて使用を認めている             |
| 2. 一部制限をしながら授業カリキュラム等で使用を認めている   |
| 3. 指導教員による許可を認めた場合など限定的な使用を認めている |
| 4. 使用を禁止している                     |
| 5. その他 ( )                       |

問3-5 ChatGPTなどの生成AIの活用について、授業カリキュラムなどで取り扱う場合の懸念点について、当てはまるものを全て選んでください。

- |                        |
|------------------------|
| 1. 学生の思考力低下の懸念         |
| 2. AIによる誤った情報の提供       |
| 3. プライバシーやセキュリティに関する懸念 |
| 4. 課題の不正解決への懸念         |
| 5. 学生のスキル習得の偏り         |
| 6. その他 ( )             |

4. ITやAI関連の学科を想定した教育支援の状況と必要な対応

問4-1 AIやビッグデータ、IoTのカリキュラムにおいて、学生が理解度を高めるために教育的な支援が必要な項目について、当てはまるものを全て選んでください。

- |   |
|---|
| 1. 中・高等学校までの基礎学力、補習授業                     |
| 2. 基礎的な数学・統計のサポート（技術分野を理解するための数学や統計の補習授業） |
| 3. プログラミング言語（Python、Javaなど）の補習授業          |
| 4. チュータリングや個別指導（個別指導やチューターによる学習サポート）      |
| 5. eラーニング教材や動画チュートリアル                     |
| 6. オンライン教材やチュートリアルを用いた自主学習のサポート           |
| 7. その他 ( )                                |

問4-2 企業連携の実習やインターンシップの実施において、どのような障壁や課題がありますか。当てはまるもの全て選んでください。

- |                                   |                  |
|-----------------------------------|------------------|
| 1. 受け入れ企業の確保                      | 2. 実習内容の調整       |
| 3. 学生の準備不足                        | 4. 学生のモチベーションの維持 |
| 5. スケジュール調整                       | 6. 賃金・報酬に関する問題   |
| 7. 学校側の学外活動支援に関する問題（インターンシップ調整業務） |                  |
| 8. その他 ( )                        |                  |







文部科学省委託事業  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
「先端IT人材育成学科新設プログラム開発事業」

---

---

## IT 系学科導入アンケート調査報告書

---

---

令和7年2月  
学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校  
〒720-0052 広島県福山市東町 2-3-6